

**福山大学**

**人間文化学部紀要**

*Journal of the  
Faculty of  
Human Cultures and  
Sciences of  
Fukuyama University*

*2023/3*

*vol.23*

目次

【論文】

- 東海に残るメディア遺構——JOCKと市民の建設したラジオ塔  
..... 丸山友美 1
- 聴覚オッドボール課題における事象関連電位に対する Dark Triad パーソナリティの影響  
.....白尾綾音・平伸二・大杉朱美・皿谷陽子 16
- 「井伏鱒二と宮沢賢治の文学における郷土観」補論—備後「穴の海」・古墳発掘に関する昭和十年代の情報と井伏作品をめぐって—  
..... 青木（秋枝）美保 (1)

【資料】

- 特定妊婦への支援に関わる一考察  
..... 日下部典子 25

**Contents**

**[Articles]**

- Media Remains in Tokai Area: Radio Pagoda built by JOCK and Citizens  
Tomomi MARUYAMA 1
- Effects of Dark Triad Personality on Event-Related Potentials in an Auditory Oddball Task  
Ayane SHIRAO, Shinji HIRA, Akemi OSUGI and Yoko SARAGAI 16
- The Addendum about the Paper “The Viewpoints about Hometown by Masuji Ibuse and Kenji Miyazawa”  
—About the Relationship between the Works by Masuji Ibuse and the Information about “Ana no Umi” in Bingo and Ancient  
Tombs Excavated that They were Reported in the Local Magazines in the 1930s —  
Miho AOKI/AKIEDA (1)

**[Materials]**

- A Study on Support for Specified Pregnant Women with Special Needs  
Noriko KUSAKABE 25

# 東海に残るメディア遺構——JOCK と市民の建設したラジオ塔

丸山 友美  
(メディア・映像学科)

本稿は、第一に聴取加入者100万突破記念プロジェクトで建設されたラジオ塔に見出したローカリティはなぜ漂白されたのかを検討し、第二にラジオ塔のローカリティを担保したアクターは誰だったのか特定し、第三に1933年の皇太子御降誕という出来事がいかにラジオ塔建設をメディア・イベント化させていたのか提示する。以上の作業を通して本稿で明らかになるのは、市民の手によって建設・寄付されたラジオ塔からはローカリティが漂白されてしまい、むしろ「体位向上」という国家目標に収斂される目的を掲げたモノとして受容・消費されるようになっていく実態である。

【キーワード ラジオ塔 メディア遺構 JOCK プロダクション・スタディーズ】

## 1. 日本放送協会から寄付されるラジオ塔から、市民から寄付されるラジオ塔へ

「戦時中まで全国に建てられた「ラジオ塔」をご存知か。」そんな一文で始まる2017年2月25日に発行された『中日新聞』の22面に掲載された「ラジオ塔 戦争語り継ぐ」と題する記事は、この前年2月にある一人の男性が志賀公園のラジオ塔について住民に尋ねたことで名古屋市西志賀町五丁目自治会会長の知るところとなり、保存運動の機運が高まりつつあることを伝えている<sup>1)</sup>。全国を訪ね歩いて『ラジオ塔大百科2011-2014』（タカノメ特殊部隊）と『ラジオ塔大百科2017』（タカノメ特殊部隊）にまとめた一冊公平を筆頭に、近年は各地に残るラジオ塔の存在が次々と確認され（柴田2021:263-277;吉井2011など）、地元住民が戦前に建設されたラジオ塔というメディア遺構を保存する必要性を行政に訴えるようになっていく。

そうした声に呼応してラジオ塔の保存に乗り出した地方自治体の一つに名古屋市がある。市内には、中村公園と松葉公園、そして先述した志賀公園の三ヶ所に戦前の姿のままのラジオ塔が残存しており、これに加えて道徳公園にはラジオ塔の台座と思われる遺構が残っている（一幡2017:17）。受信機やスピーカーを失い、風雨に晒されたこの建造物を、ラジオ塔だと記憶している地元住民はほとんどいない。現在、名古屋市のラジオ塔3基には、この建造物がラジオ塔であることを今に伝える解説文を付した案内板が設置されている（図1、図2）。例えば志賀公園の案内板には、ラジオ塔建設の経緯が次のように紹介されている。

### ラジオ塔

ラジオ塔は昭和5年以降、ラジオ放送を市民が自由に聞けるようにと日本各地に設置されるようになりました。

志賀公園には、昭和17年度に名古屋市西志賀土地区画整理組合の寄附により設置されました。

塔の上部に受信機やスピーカーが置かれ、塔の周りで市民が放送を聞いていました。

市内には10ヶ所ほど設置されましたが、現在は志賀公園の他に中村公園、松葉公園に当時のラジオ塔が残されています。

### 名古屋市

この案内板は市民の興味を煽ることに成功しているようだ。「名古屋市についての資料をどこよりも揃え」「名古屋のことならどこよりもしつこく調べ」「名古屋のことを調べているみんなのお手伝いをどこよりもする」という名古屋市図書館で活動する「名古屋なんでも調査団」（以下、調査団）<sup>2)</sup>の『調査団報告書』の調査No.85には、「ラジオが受信できるようには見え」（名古屋市図書館なんでも調査団2019:1）ない名古屋のラジオ塔について教えてほしいと調査依頼する市民の姿を確認できる。この報告書では、調査団により「名古屋市内には少なくとも9か所（鶴舞、中村、志賀、南久屋、道徳、松葉、上名古屋の各公園と笠寺観音、東別院）に設置」されていたことが確



認されているが、ここにはさらに図書館利用者からの情報提供により「鶴舞公園のラジオ塔の詳細な位置や新たなラジオ塔の存在」が明らかになり、昭和18年版の『名古屋の公園上巻』に「東山公園（動物園内）にもラジオ（ラジオ）塔があったとの記載」を確認したこと、そして1943年にまとめられた『皇太子殿下御降誕記念事業公園』では「港北公園にもラジオ塔があったとの記載」を確認できたことが追記されている（名古屋市区図書館なんでも調査団 2019:1）。



図1 志賀公園のラジオ塔  
(2019年2月3日筆者撮影)



図2 志賀公園のラジオ塔案内板  
(2019年2月3日筆者撮影)

このように公園の片隅や神社の境内にひっそり佇み、いまでは由来のわからないモニュメントとして街の風景になじんでいるラジオ塔の開発経緯や全国展開のプロセスを検討したのが、2021年に発表した拙稿「関西に残るメディア遺構——JOBKの建設したラジオ塔」と2022年に発表した拙稿「関東に残るメディア遺構——JOAKの建設したラジオ塔」という2つの論考である。前者では、ラジオ塔を企画・開発した日本放送協会の関西支部（以下、BK）の計画部／総務部企画課の活動に着目し、ラジオ塔が放送事業者の頭を悩ませた「聴取者加入廃止」の抑制対策の一環で企画・開発されたメディアだったことを指摘した。それはつまり、ラジオ塔が「常設受信拡大装置」という「ラジオと共にある生活」の意義を、[聴取者]自らの生活の中に見出していくモノ（丸山 2021:22）として登場した街頭ラジオだったという忘却されたローカルな放送史である。けれども、BKの考案したラジオ塔は、1932年に聴取加入者100万突破という日本放送協会の記念事業に組み込まれたことで、その意味を大きく変容させていくことになる。それが、「国家非常時に放送を届けるのに社会的役割を担うモノ」として解釈し直され、「公衆用聴取施設」として全国各地に急造されたラジオ塔に新たに付与された役割だった（丸山 2021:21-22）。このようにして2021年の論考では、1932年以降に建設されたラジオ塔は、BKが建設したラジオ塔に内在したローカリティを喪失したモノとして聴取者の前にあらわれていたと結論づけた。

こうした旧稿に対し、聴取加入者100万突破の記念事業の一環で建設されたラジオ塔にもローカリティが認められることを指摘したのが、翌年に発表したもう一つの論考である。ここでは、日本放送協会の関東支部（以下、AK）の総務部企画課と横浜市、そして逓信省の三者の様々な思惑が複雑に絡まり合いながら、横浜・野毛山公園にラジオ塔が建設されるプロセスを検証した。このような作業から見出したのが、野毛山のラジオ塔が「想像以上に、「場所」の固有性と密接な関係を築いたモノ」（丸山 2022:24）として、人々の前にあらわれていたというラジオ塔を巡るもう一つのローカルな放送史である。ただし、そのようにして多様化したはずのラジオ塔のローカリティは、

日本放送協会による「一戸一受信機」キャンペーンに組み込まれ全国各地に増設されたこと」で消失してしまい、「建設された理由や由来が国家政策に絡め取られ」た結果として、ラジオ塔はその意味や役割を「非-場所」なモノへと変容」していかざるを得なくなった（丸山 2022:24）。このようにして後者の論考では、記念事業の一環で1932年から1933年頃に建設されたラジオ塔には認められるラジオ塔のローカリティが、1939年から1940年頃に建設されたラジオ塔からは喪失していた可能性が高いと結論づけた。残念ながら2つの論考で問いつけた「聴取者が自らの生活の中でラジオ塔をいかに受容・消費していたのか」（丸山 2022:24）という課題は、十分な資料が見つからず、残ったままになっている。

これに応えるため、筆者は引き続き、全国に残るラジオ塔にかんする資料調査に取り組んだ。本稿は、この調査を通じて発見した新資料に基づき、これまでの論考では十分に検討できなかったラジオ塔の意味変容の過程に市民の存在を加えることを試みる。後に詳しく見ていくが、1933年12月23日の皇太子（現、上皇）誕生の記念として皇室から「母性並児童保護事業」に下賜された75万円を基に、名古屋市が施行した「皇太子殿下御降誕記念事業」によって市内に公園が増設されると、市民が新設された公園にラジオ塔を建設・寄付していた。こうした取り組みを、本稿では次の三つの観点から検討していく。第一に聴取加入者100万突破記念プロジェクトで建設されたラジオ塔に見出したローカリティはなぜ漂白されたのか検討し、第二にラジオ塔のローカリティを担保したアクターは誰だったのか特定し、第三に1933年の皇太子御降誕という出来事がいかにラジオ塔建設をメディア・イベント化させていったのか提示する。

## 2. 「加入聴取者100万突破」を記念して建設されたラジオ塔のローカリティ

### 2. 1 新潟・白山公園のラジオ塔

日本における放送事業は、1925年に東京・大阪・名古屋の三都市に誕生した社団法人東京放送局（AK）、社団法人大阪放送局（BK）、社団法人名古屋放送局（CK）の三事業者によって始まった。翌1926年、三局は逓信省による合同化の助言と指導を受け、同年8月に社団法人日本放送協会（以下、放送協会）を発足させると、それぞれ関東支部・関西支部・東海支部として放送協会に組み直された。その後、1928年11月の天皇即位行事に合わせて、1927年に北海道支部（札幌放送局）、九州支部（熊本放送局）、東北支部（仙台放送局）、中国支部（広島放送局）の4支部が設置され、全国放送に必要な中継網が整備されるに至った（村上 2017:30）。また、1930年代前半には県庁所在地を中心に各地に放送局が設置されるが、新設された放送局は各支部の傘下に置かれたことから、その活動指針は支部単位で決定されたという（村上 2017:32）。本稿で言及する支部と放送局に限って挙げれば、関東支部（東京中央放送局）の傘下に新潟放送局、前橋放送局、静岡放送局、長野放送局が設置され、東海支部（名古屋中央放送局）の傘下に浜松放送局、金沢放送局、福井放送局が設置されたという具合である。

新潟放送局は、新潟県新潟市旭町の水道用地に局舎を起工し、1931年11月11日に実施した盛大な開局式を経て本放送を開始した。これにより、「直接東京中央放送局其の他の既設放送局よりの受信も不可能では」なかった「一部」の人々にのみ開かれていたラジオは、新潟に暮らす様々な人々でも「低廉な費用でしかも完全に聴取されラジオ文化の利用吸収は意の儘と」（1931年11月11日付『新潟新聞』1面）することができるようになった。けれども、ことはそう上手くはいかなかったようだ。新潟市が2000年に発行した『新潟歴史双書4 白山公園あたり』には、次のような文章を見つけることができる。

新潟市内のラジオ放送の聴取登録件数は、新潟放送局開局前の[昭和]6年5月末には751件であったが、8年12月には4976件に増加した。とはいえ、これは市内世帯数の五分の一で、ラジオ受信機のない家が多かった。開局一周年の7年11月11日、新潟放送局はラジオの普及を図って白山公園内にラジオ放送を流す施設を寄付した。それがラジオ塔であった。この塔は全国から懸賞募集して決めたデザインに基づいて、市の土木課が建てた。たたずんだり、散策したりしながら、ラジオ塔から流れる放送に耳を傾ける人も多かった。これ以後、借楽館を背景に蓮池とその中央にラジオ塔が立つ風景は、白山公園の絵葉書の定番になった。（新潟市 2000:51-

新潟放送局が白山公園にラジオ塔を建設し、それを開局一周年に合わせて新潟市に寄付したのは<sup>3)</sup>、新潟放送局管内におけるより一層のラジオの普及を企図したものだったというわけだ。実際、開局一周年を報じる当時の地方紙に目を向けると、新潟放送局の一年間の活動を評価しつつ、ラジオ塔の設置によりラジオ文化のさらなる発展を祈念する文面が見つかる。1932年11月11日付『新潟新聞』1面では、「新潟放送局では一周年を永遠に記念するため白山公園の蓮池に優美なるラヂオ塔を建設して新潟市へ寄附し心身の休息を欲して公園に足を運ぶ多くの人々に刻々の放送を伝える」モノとしてラジオ塔が紹介されており、同紙面には「記念のラヂオ塔」と題する新潟市長の寄稿記事も掲載されている(図3)。その内容は以下の通りである。<sup>4)</sup>



図3 1932年11月11日付  
『新潟新聞』1面より「記念のラヂオ塔」

#### 記念のラヂオ塔

新潟市長 中村淑人

新潟放送局の新設されてより茲に一周年を迎へこれを記念するために白山公園内蓮池にラヂオ塔を建設されその除幕式を挙行せらるゝことは慶賀の至りに堪へざるものなりラヂオが政治、経済、産業、教育、衛生等の向上発展に資するところ大なるものあることは世間のひとしく認むるところにて当局もこれを更に一般と大衆化シラヂオの機能を遺憾なく発揮しますゝ国運の進展に努むる方針をもつて種々計算されつゝあるを仄聞するところ。しかるに今ラヂオ塔の建設を見るに至りし方は●にラヂオの普及化実現の第一歩といふべし、而も建設されたるラヂオ塔は公園蓮池中に高尚にして優美に出来て白山公園の風致に光彩を添たる方は感慨深く能はざる次第であると共此ラヂオ塔によつてラヂオはますゝ大衆化シ当局の理想に一步を進めた方を如実に示したるものといふべく従つて新潟放送局の前途は実に多幸多福といはねばならぬ。こゝに謹んでラヂオ塔除幕式の挙行に当り祝意を表するものである。

また、同日の4面には、「白山のラヂオ塔竣成」という見出しと共に、完成したラジオ塔の姿を写真で確認すること



ができる。この写真には次のような文面が添えられている（図4）。



図4 1932年11月11日付  
『新潟新聞』4面より「白山のラヂオ塔竣」

#### 白山のラヂオ塔竣成

既報、市内白山公園蓮池中央に建設中のラヂオ塔は写真で見ると通り去る九日立派に出来上り、十一日除幕式を待つばかりとなった。此の塔はAKが全国から懸賞募集した多数の提案の内から選り抜いた美しいもので二百圓の工費で市土木課の手で竣成されたものである。高さは地上より十四尺六寸五分、和洋せつちゅうの公園池には最適の建築物で白山公園の一異彩である。スピーカーのスキッチは公開看視人の詰所に設置し、適ぎ放送するものである（写真は醸成せるラヂオ塔）

かくして、新潟放送局が新潟市に寄付したラジオ塔は「中村市長、入江助役以下市役所各課長、星市会副議長以下市会議員、三十五連合会長、羽入本社常務、市内ラヂオ商組合員其他約五十名、放送局側よりは中山常務、苫米地企画課長、後藤宣伝係長、新谷QK局長以下局員十余名」を来賓に迎え、「入江市助役令嬢の可愛手で除幕」（1932年11月12日付『新潟新聞』4面）された。白山公園のラジオ塔は好評を博し、1933年6月4日付『東北時報』の5面はラジオ塔を受容・消費する人々の姿をユーモアを交えて伝えている。いわく、「ラジオファンが夏の夜、白山公園池畔のベンチで熱心に聴き入ってるが、此ラジオ塔、最初は大声を發したのが、此の頃は或る囁きほどにしか聞こえなくなった、塔氏さほど遠慮しなくとも良い、闇にさゝやく男女を吐鳴り付ける位みに朗らかに玉へ」といった具合である。

なお、旧稿（2022）では、1932年9月5日に発行された『関東支部彙報』31号を用いてAK総務部企画課が東京・横浜・長野・静岡・新潟・前橋の6箇所にラジオ塔を建設するまでの動きを確認したが、この時AK総務部企画課の念頭にあったのは、聴取加入者100万突破を記念してラジオ塔を建設するということである。そのため、新潟放送局の開局一周年を記念してラジオ塔を建設したという説明は、副次的なものだった可能性が高い。

## 2. 2名古屋・鶴舞公園のラジオ塔

このようにしてBK 企画課が開発したラジオ塔はAK 企画課によってAK 管内に次々と建設されていったが、この二支部と共に1925年に放送事業を開始し、1926年に東海支部として日本放送協会に組み込まれたCKもラジオ塔の建設に取り組んでいた。CK管内で初めてラジオ塔が建設されたのは、名古屋市昭和区にある鶴舞公園である。1933年4月1日から稼働し始めたこのラジオ塔は、BKやAKが建設したラジオ塔とはやや異なる「あくび型燈籠」あるいは「古代型灯籠形」（人見 2019:201; JOCK 欄 1933b:66, 1933c:73）という建築様式によって人々の前にあらわれた。1933年3月31日付『新愛知』2面には、「桜花の下でラヂオ聴く麗かさ 鶴舞公園胡蝶池畔にできたコンクリート製巨大な怪物 CK ラヂオ塔竣成」と題する記事が掲載されており、CK主導で初めて建設したラジオ塔の完成が次のように報じられている（図5）。



図5 1933年3月31日

『中日新聞』2面「桜花の下でラヂオ聴く麗かさ」

◇…一ヶ月程前から名古屋鶴舞公園胡蝶ヶ池の畔に、馬鹿に頑丈でグロテスクな体躯をしたコンクリート製の怪物が佇立して、公園へ遊びに来た坊ちゃんや嬢ちゃんたちが「あれなんだろうか」と訝つてみましたが、竣工に近づくと共に、段々姿を●へて三十日にはとうとう見事に燈籠の正体を現はしました

◇…これは名古屋中央放送局が工費千数百円を投じた苦心の計画になるラヂオ塔で、三十日のテストを見事にパスし四月一日から愈々高座ならぬ池の畔から、或は浪花節を、或は講演を、或はラヂオドラマを、或は坊ちゃんや嬢ちゃんを喜ばせる童話劇を、ラウドスピークすることになりました。差し当つて野球ファンが聞き逃さじと待望の甲子園全国選抜中等学校

◇…野球大会の中継放送が聞かれるわけですが、此のラヂオ塔は音楽堂あたりのベンチに腰掛けてゐても聞かれると云ひますから、便利なものです。殊に夜間には電燈が点ぜられ終宵漫步の折、悩める春の心を慰める相手ともなるもの。CK 局側案になる此のラヂオ塔は、鶴舞公園の外に

◇…長良川畔の岐阜公園金華山麓の一つ、殆んど之と同時に開始し、日本三公園の一金沢の兼六公園のは四月半ばから、また福井市佐佳枝境内にもこんなラヂオ塔が五月中には設けられます。

これに「胡蝶ヶ池付近のベンチに腰を下してラヂオ漫談でも聞きながら人生の愉楽を満喫して下さい」という文句が続く。なお、この時鶴舞公園に建設されたラヂオ塔は「高さ十尺リソイド塗の淡青色」のもので、聴取者が利用しやすいように「その日その日のプログラムは対岸の東屋内の掲示板に掲載」（『中日新聞』1933年3月31日2面）されていたという。CK 管内で初めて建設された鶴舞公園のラヂオ塔は、『ラヂオの日本』の16(5)号が伝えるところによれば「開始早々より非常な人気を集め多数の人々の聴取せられて」（JOCK 欄 1933a:72）いたという。このことを踏まえれば、ラヂオの一般化と大衆化に鶴舞公園のラヂオ塔が役立ったことは間違いない。だが、この地域では困ったことに「石燈等の完成した時に、一番最初にその一片を剥ぎ取った物は金が溜るといふ迷信からか、ラヂオ塔の笠の一部分が剥がれて居る形跡が」（JOCK 欄 1933a:72-73）確認され、局員が驚いたというエピソードも同号には合わせて掲載されている。なお、鶴舞公園に設置されたラヂオ塔には、「天蓋の中に拡声器（RCA 製、AC ダイナミックスピーカー）を装備して音が四方へ一様に伝搬する様反対装置をほどこし、音質を損なはぬため緩衝装置が設けられて」いたのにくわえて、「高周波増幅に UY2242 段、検波は UY224、アノード検波、低周波一段目にベントード UY247B、終段は UX245 プッシュプル増幅にて出力約4ワット。別にレコード演奏の場合のピックアップ。音声増幅の場合のマイクロフォン用増幅装置として UY224 一ケを使用し任意切替し得る」ようになっており、「二重放送実施の暁にはスイッチにて簡単に第一放送と第二放送とを切り替へし得る」とことと「音声に歪みのない様蓄電器容量や抵抗の選択に意が注がれて」（JOCK 欄 1933b:67）いた。そして「塔には掛燈籠を付けこれが灯はパイロット、ランプを兼ねてゐる」（JOCK 欄 1933b:68）ようになっていた。

こうしたラヂオ塔の建築様式や付帯設備もさることながら、塗装を剥ぎ取る行為は他の支部管内で建設されたラヂオ塔の記録には、管見の限り残されていない。これを踏まえると、局員を驚かせたというこの事件もラヂオ塔のローカリティを示しているように思われる。それはまた、CK 管内におけるラヂオ塔の受容と消費の一旦を示すエピソードとしても解釈可能なもののはずだ。そこで次節では、CK 管内におけるラヂオ塔の増設過程を受容・消費する存在としてのみ捉えてきた聴取者（市民）の側から検討してみたい。

### 3. 市民の手で建設・寄付されたラヂオ塔

#### 3. 1 道徳公園（1940年）

愛知県名古屋市中区にある市政資料館で保存されている公文書の検索サイトで、「ラヂオ塔」というキーワードを入力すると9件ヒットする<sup>5)</sup>。具体的には、「道徳新町自治連合会代表外1名より道徳公園へラヂオ塔」（簿冊 ID6492, 索引番号 81, 連番 1）、「南久屋連区東部有志代表より南久屋公園へラヂオ塔」（簿冊 ID6492, 索引番号 100, 連番 1）、「上名古屋土地区画整理組合長より上名古屋公園にラヂオ塔」（簿冊 ID6492, 索引番号 101, 連番 1）、「港北耕地整理組合長より博覧会跡公園にラヂオ塔1基」（簿冊 ID6496, 索引番号 1, 連番 1）、「日本放送協会名古屋中央放送局長より東山公園及名古屋城へラヂオ塔用受信機各1台」（簿冊 ID6496, 索引番号 39, 連番 1）、「日本放送協会名古屋中央放送局長より中村公園、志賀公園ラヂオ塔用受信機」（簿冊 ID6496, 索引番号 63, 連番 1）、「日本放送協会名古屋中央放送局長より瑞徳公園ラヂオ塔用受信機」（簿冊 ID6496, 索引番号 64, 連番 1）、「東宿土地区画整理組合長並日比津土地区画整理組合長より中村公園ラヂオ塔1基」（簿冊 ID6496, 索引番号 65, 連番 1）、「名古屋中央放送局長より鶴舞公園内ラヂオ塔並附属設備一式」（簿冊 ID6122, 索引番号 19, 連番 1）である。ただし、市政資料館の端末で検索した際、これに加えて「○道徳新町自治会連合会よりラヂオ塔、受信装置」（簿冊 ID6493, 索引番号 40, 連番 5）という資料も見つかったため、これを合わせると全部で10件になる。

1940年から1944年にかけて名古屋市で建設・寄付されたラジオ塔に関する公文書の確認により、先行するラジオ塔研究（人見 2019:215-216；一幡 2017:12-17）では言及されてこなかった四つのラジオ塔の存在が明らかになった。一つは博覧会跡公園（現・港北公園）のラジオ塔であり<sup>6)</sup>、二つは東山公園のラジオ塔であり<sup>7)</sup>、三つは名古屋城のラジオ塔であり、四つは瑞穂公園のラジオ塔である。一幡は日本放送協会が発行する『ラジオ年鑑』では「すべてのラジオ塔を」網羅できていない」可能性が極めて高いことを示唆した上で、その一覧には「“漏れ”が多々ある」（一幡 2017:13）と指摘する。そのため「ラジオ塔は合計465箇所以上あったとされているが、実際のラジオ塔の総数というのは、本当はもっと多かった」（一幡 2017:3）ことは否めないという。こうしたラジオ塔の記録状況を鑑み、引き続き、筆者も調査を続ける。

さて、名古屋市で作成されたラジオ塔に関する公文書の中で注目したいのは「道徳新町自治連合会代表外1名より道徳公園へラジオ塔」という1940年に作成された記録である。そこには、寄付に至る経緯を記した「寄附採納願」と「趣意書」、そして「道徳公園ラジオ塔新設工事仕様書」が綴られている。その内容を以下に転記する。なお、転記にあたってはカタカナ表記を平仮名表記へ改めた。手書きの修正は、取り消し線を使って可能な限り再現した。

#### 寄附採納願

一、ラヂオ塔 一基 受信装置一式附

此ノ見積価格金八百拾圓也

右御市 皇太子殿下御降誕記念事業道徳公園に建設の上御寄附申上度候間御採納被成下度段奉願候也

昭和十五年七月二十九日

(住所略)

道徳新町自治総合会代表 馬杉源次郎

同 伊東瀧次郎

名古屋市長 県 忍 殿

#### 趣意書

上叡聖の御旨を戴き下一億の総力を聚めて八紘一字ノ大沛を掲げ陸に海に征戦茲（に）四歳大和民族発展の礎石は大陸の土の上に今や確乎として打ち建てられ様として居ます洋々たる希望は国民の前途にありて大陸はやがて大和民族第二の郷土でありませう、然るに近時我が第二の国民が体格益々弱化しその増加率も年々低下の実情にありこの儘に放任せんが兒等が父兄の碧血を以て購ひたる大陸の郷土を以て担当すべき人的資源の涸渇により空しく消滅し（、）むしろ却つて国運の昔日より悪化するの憂なしとせず真に体位向上の枢要なる今日に比するものではありません、国民は挙つてこの体位の頹勢を挽回し以て國民族発展の基礎たらしむべきであります、我が道徳新町は挙町一致老若男女を問はず茲に厚生熾烈なる運動を開始し先づ早朝のラヂオ体操の会を以てその第一着（手）とすべく定めました、これがため幸にして本町内に皇太子殿下御降誕記念事業道徳公園新設中なるを以てこの地を（とし）挙町一致構成運動の標識として併せて光輝ある皇紀二千六百年を記念すべくこの総力を以てラヂオ塔を建設し是を同公園の一般的永久施設として寄附すべく決議しました、これによりて結束せる町民は一致して毎日朝露を踏んでこの塔に集りラヂオと指導者の発声により盛大なる体操大会を開催し以て体位向上と一億一心協力の実を挙ぐる計画であります、工費予算約六百円に依りて施工する考へであります、敷地ご指定の上御許可の程御願申上ます

(受信機装置一式見積価格金貳百圓也)

昭和十五年七月二十九日

馬杉源次郎

伊東瀧次郎

名古屋市長 県 忍 殿



続けて、「道徳公園ラヂオ塔新設工事仕様書」の内容と設計図(図6)の詳細を以下に転記する。この記録から明らかになったのは、既に消失してしまったラヂオ塔の具体的な寸法と色、そして使用した材料とその建築様式である。

一、位置 名古屋市南区道徳町市立公園内

「グラウンド」北側中央に建設するものなり

整地

一、四平方米「グラウンド」面より二十糎高に整地なす

基礎

一、一米二十糎南深さ五十糎に根伐なし地杭打をなし割栗石を以て橋固め混凝土を地盤より二十糎高に打にげとし

ラヂオ塔

一、木造建にて頭上●で五糎高とす

外装

一、塔台天端縁はみどり色タイル張側面及天端人造洗出し仕上げとす

塔柱は下部一糎高上で玉子色タイル張仕上げとす

塔上●では黄色「リソイド」塗仕上げとす

頭上「ラヂオ」台文十糎の用にて四方がらり窓を附す

以上、



図6 簿冊 ID6492, 索引番号 81, 連番 1

「道徳新町自治連合会代表外1名より道徳公園へラヂオ塔」より「道徳公園ラヂオ塔新設工事仕様書」

市民から申し出のあったラヂオ塔の建設とそれを道徳公園に設置した上で名古屋市に寄付したいという請願は、昭和15年市参議会議案第169号の記録に従えば、「本市道徳新町自治総合会代表馬杉源次郎氏外一名より左記の通寄附申出ありたるを以て之を受納するものとす」として昭和15年8月18日に提出され、即日可決されたようだ。このようにして新たな資料から示されたのは、市民がラヂオ塔を主体的に建設・寄附していたことと、ラヂオ塔を建設・寄附した市民の趣意は皇太子誕生を祝う新公園建設の趣意と合致していたこと、そして建設したラヂオ塔の下でラヂオ体操を実施して、町民一丸となって体を鍛え大和民族の発展に寄与するメディアとして解釈されていたということだった。この検討は次節で行うこととして、続けて、同じように名古屋市の「皇太子殿下御降誕記念事業」の一環で新設された博覧会跡公園に建設・寄附されたラヂオ塔を見ていくことにしよう。



### 3. 2博覧会跡公園（現・港北公園）（1942年）

市民からラジオ塔の寄付があったことを記録した公文書には、上述した以外にも「南久屋連区東部有志代表より南久屋公園へラジオ塔」と「上名古屋土地区画整理組合長より上名古屋公園にラヂオ塔」、そして「港北耕地整理組合長より博覧会跡公園にラジオ塔1基」と「東宿土地区画整理組合長並に日比津土地区画整理組合長より中村公園ラジオ塔1基」の4件が保存されていた。この中で、ラジオ塔の設計図が添付されているのは、1937年に実施された日本初の国際的博覧会とされる「名古屋汎太平洋平和博覧会」の跡地に建設された博覧会跡公園（現・港北公園）のものである。

「港北耕地整理組合長より博覧会跡公園にラジオ塔1基」には、「昭和十七年市参事会議案第一号」と港北耕地整理組合長を代表として作成された「寄附採納願」、そして「ラヂオ塔建設完成届」と「ラヂオ塔設計図 縮尺拾分之一」がひとまとめに綴られている。博覧会跡公園のラジオ塔はすでに消失しており、その大きさや建築様式を窺い知る資料の一つであることから、詳細を以下に転記する（図7）。なお、昭和17年1月12日に提出された市民からの請願は、先述した道徳公園のラジオ塔と同様に、市参事会で即日可決されている。

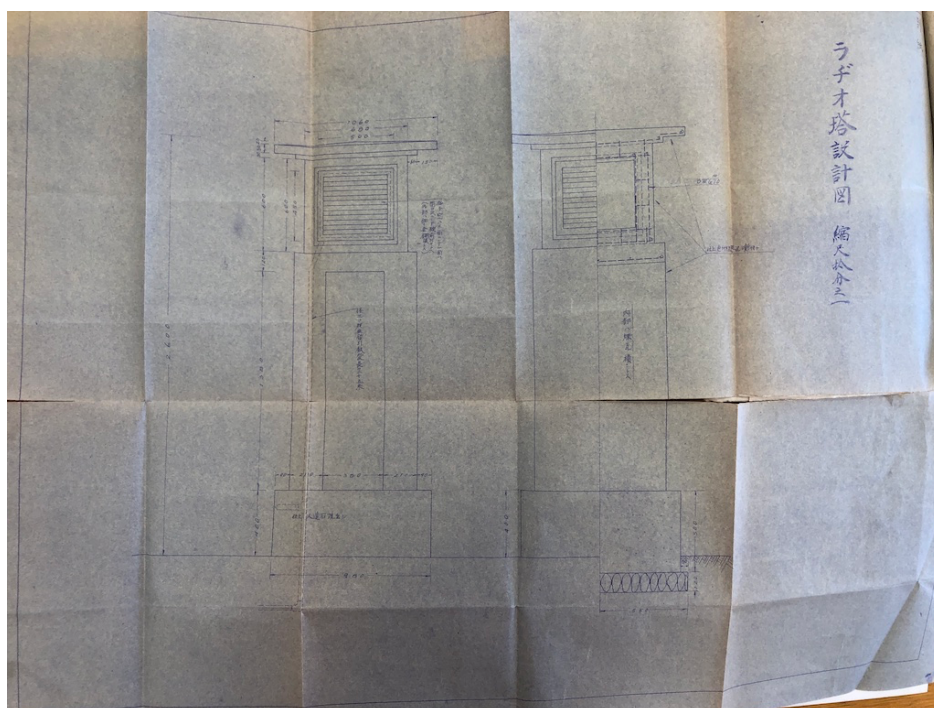


図7 簿冊 ID6496, 索引番号1, 連番1

「港北耕地整理組合長より博覧会跡公園にラジオ塔1基」より「ラヂオ塔設計図 縮尺拾分之一」

昭和十七年市参事会議案第一号

寄附受納の件

名古屋市港北耕地整理組合長磯貝浩氏より左記の通寄附申出ありたるを以て之を受納するものとす

昭和十七年一月十二日提出

名古屋市長代理名古屋市助役 佐藤正俊

一、ラジオ塔 壱基 受信装置並マイクロホン一式附

此の見積価格 金五百五拾圓也

右御市 皇太子殿下御降誕記念事業博覧会跡公園に建設の上

御寄付申上寄附採納願●候間御採納被成下度奉願候也

昭和十六年十二月四日

(住所略)  
港北耕地整理組合  
組合長 磯貝浩  
名古屋市長 梶 忍殿

「港北耕地整理組合長より博覧会跡公園にラジオ塔1基」には趣意書は綴られていないため、どのようなことを考えて市民がラジオ塔を寄付したのかについては定かではない。そこで次節では、1943年4月8日に名古屋市土木局公園課が発行した『皇太子殿下御降誕記念事業公園』を参照しながら、市民の手で建設・寄付されたラジオ塔について考えてみたい。原資料は名古屋市鶴舞中央図書館にて保存されており館内でのみ閲覧可能だが、同資料は、2015年に松浦國弘の監修を受け、近現代資料刊行会の企画編集によって出版された『近代都市環境研究資料叢書4 近代都市の衛生環境 名古屋編37 都市計画・都市整備③』に再録されている。本稿ではこれを用いる。

#### 4. 名古屋市による「皇太子御降誕記念事業公園」と市民からのラジオ塔寄付

##### 4. 1 皇太子御降誕記念事業の経緯

1933年12月23日に皇太子が誕生すると、名古屋市はその祝意を表すため記念事業の実施を決定し、1934年2月23日に皇太子殿下御降誕記念事業調査臨時委員を設置して、どのような記念事業に取り組むか審議し始めた。皇室からは皇太子誕生を記念して内帑金から75万円が名古屋市に対して下賜されていたが、これは「母性並児童保護事業」に対するものだったため、名古屋市は次のように考えをまとめた。

皇太子殿下御降誕を記念あらせられ、御内帑金七十五萬圓を、母性並児童保護事業に御下賜あらせられたので、此の有難き聖旨を奉戴して、本市に於ても速かに適當なる事業の選定をすることゝなつたが、ひるがへつて本市の緑地事情は、市街の急進的膨張に伴ひ、これに対処すべき緑地の必要を痛感されつゝあり、緑地の増加は市民の保健、衛生上忽にすべからざるものであり、特に第二の国民たる児童に対し、其の情操を高め、体力を向上し、一面天真なる児童の安息所ならしむる小公園の建設こそ本事業として最も適當なりとし、市内十ヶ所に小公園の建設を決定、昭和十二年九月二十八日市会の決議を得、事業費総額五十萬圓を以つて、昭和十二年度より三ヶ年継続事業として直ちに事業に着手することゝなつた。(松浦監修・近現代資料刊行会企画編集 2015:397)

この事業では九つの公園(上名古屋公園、港北公園(旧・博覧会跡公園)、児玉公園、小碓公園、大幸公園、道徳公園、白水公園、松葉公園、八熊公園)が建設されたが、名古屋市の都市計画公園と相まって、市民は公園に配備された遊具を使ったり、運動場や相撲場、そしてボート池などを使って運動したりすることを楽しめるようになった。これら公園の建設にあたっては、地元土地区画整理組合から敷地の寄付が行われたことを筆頭に、公園に配備される各種設備の寄付というように市民から様々な配慮が行われたようである。同資料には、そうした関係各所に対して名古屋市土木局公園課が謝意を伝える文章を確認できる。

本事業公演予定地は其の大部分が地元土地区画整理組合地区であり、之等組合の協力を俟つくもの多く、工事に先立ち交渉を開始せし處、組合に於ても本事業に協力せられ、進んで其の敷地を本市に寄附せられたので、本市に於ても本事業達成に専念、鋭意工事の進捗につとめ、昭和十五年に至り、本事業施設費に対し、児童運動場補助金として、国庫補助金を下附せらるゝ事に決定したるを以て、之が事業年度を二ヶ年延長し、此の国庫補助金を合せ、事業費総額六十萬八千圓を以つて、本事業の完璧を期する事になった。昭和十六年に至り、事業計画の一部を変更、市内中央部予定公園は都市計画事業として施行することゝなり、外九公園は昭和十六年三月に、松葉公園をはじめ六公園の竣功を見、残る三公園は更に一ヶ年事業年度を延長、本年三月竣功を見るに至つたのである。(中略)茲に本事業完成を記念するに當り、其の敷地の寄附に、施設に就き、種々配慮を賜りたる、

各土地地区画整理組合、名古屋中央放送局、其のほか関係各位に対し、萬腔の謝意を表する次第である。(松浦監修・近現代資料刊行会企画編集 2015:397)

なお、ここで言及されている名古屋中央放送局と記念事業との関わりを示す資料は見つかっていないことから、どのような寄付が行われたのか定かではない。くわえて、「皇太子御降誕記念事業」では市内十ヶ所に公園の建設が予定されていたが、十番目の公園の記録は「記念事業公園配置図」(松浦監修・近現代資料刊行会企画編集 2015:417)に手書きで書き込まれた「@県庁舎跡公園」しか残されておらず、名古屋中央放送局からであれ市民からであれ、その公園にラジオ塔が寄付されたかどうかは今のところ確認できていない。

ここまでの議論を整理すると、「皇太子御降誕記念事業公園」として1943年までに設立された九つの公園の内、ラジオ塔が建設・寄付されたのは上名古屋公園と港北公園、そして道徳公園の三ヶ所だったことが明らかになった。ただし、『皇太子殿下御降誕記念事業公園』の「松葉公園」のページには「四女子、篠原両組合より寄附せられましたラジオ塔があります」という記載があり、市民から寄付されたラジオ塔はもう一つ設置されていた可能性がある。これも合わせると、記念事業の一環で建設された九つの公園の内、四つの公園に市民の手でラジオ塔が建設・寄付されていたことになる。

#### 4. 2メディア・イベント化するラジオ塔建設

このように「皇太子御降誕記念事業公園」を一望した時、気になるのは「道徳新町自治連合会代表外1名より道徳公園へラジオ塔」に綴られていた「趣意書」において見た「体位向上」と公園整備の関係性だ。戦前の名古屋市都市計画公園についてまとめた名古屋市都市センターの報告書によれば、1937年に「運動公園整備」という形で、初めて名古屋市でも都市計画公園事業が着手されることになったのだという(名古屋市都市センター 2013:18)。この試みは「これまでの「遊観の場」あるいは「名所」「庭園」といったイメージから離れ、「国民体位向上」という大義名分により、初めて公園整備事業が始められた(名古屋市都市センター 2013:18)ものだったというのだ。こうした運動公園整備事業の背景には、「国民の体位向上・運動熱が高ま」っていたことにくわえて、「昭和11年には東京オリンピックの昭和15年(1940年)開催が決定されるなどの動き」(名古屋市都市センター 2013:19)があったことを同報告書は指摘している。

これを踏まえて名古屋市民からのラジオ塔寄付について考えようとする時、その取り組みは、ラジオ塔を通じたメディア・イベント化だったように思われる。というのは、1933年の皇太子誕生と1936年の東京オリンピックの誘致とその返上、1940年の皇紀2600年記念と1941年の開戦というように1930年代から1940年代を架橋するように、市民は自らが主体的に建設したラジオ塔というメディアを作って(あるいは使って)、それらを大きく盛り立てていったように見えるからだ。それは、D. ダヤーンとE. カッツが提起した「メディアが媒介するイベント」(吉見1996:13-20)というメディア・イベント概念を拡張するような行為である(辻 2011)。そのような活動に取り組むことで市民は、メディアを通じてイベントを観察したり送られてきた情報を受容・消費したりする「受け手」の枠から逸脱し、ラジオ塔を建設・寄付するという行為を通じてイベントの主催者のように振る舞う「送り手」側に立つ役割まで担うことのできる存在になる。

このように市民からのラジオ塔寄付を解釈する場合、肯首できないのは、その試みが国家的祭祀や国民を総動員する戦争へ傾倒していく政治体制を相対化するものにも問題視するものにもならなかったことだろう。そのような意味で、ラジオ塔のローカリティは、市民の手で漂白されてしまったと考えるのが自然なように思われる。それはつまり、ラジオ塔は為政者や放送事業者に押し付けられる形で全国に増設していった側面はある一方、市民はその取り組みに賛同するようなやり方でラジオ塔を寄付していたということである。このことは同時に、土地権利者や行政の担当者と交渉を重ねたり、建設地の景観に配慮したりしながらラジオ塔を全国に増設し、そのローカリティを維持させようとした日本放送協会の総務部企画課というアクターの存在を際立たせる。無論、市民によるラジオ塔の建設と寄付の活動が他地域でも行われていたことはすでに指摘されており、為政者や放送事業者の想定から逸

脱するようなラジオ塔が存在した可能性は残されている。調査を続ける。

## 5. おわりに

「一戸一受信機」キャンペーンに組み込まれ、1939年から1940年頃にかけてラジオ塔が全国展開した過程を、名古屋市民が自らの手で建設・寄付したことを記す公文書を用いて批判的に検討することを試みた。こうした本稿の作業から明らかになったのは、市民の手によって建設されたラジオ塔は、建設の意義や建築様式にローカリティを見出しづらいということである。限られた資料に基づく結論ではあるが、大和民族の発展を企図した市民が、日本国民の「体位向上」という趣意をラジオ塔の展開・伝搬プロセスに追加していったことは、国外へ拡大していくラジオ塔の分布を見ていく上で重要な視点であろう。そうした目的は、また、町の景観や地域住民の生活に配慮したラジオ塔のローカリティを後景化させていく動きとつながっていったようにも見えるものであることを指摘した。

こうした観点から台湾・沖縄・インドネシア・タイなど日本の植民地支配地の拡大と共に世界に広がっていったラジオ塔に目を向ける時、ラジオ塔の下でラジオ体操を実施した人々の姿は、黒田勇が指摘するように「日本の領土であることや日本の支配を示すシンボル」(黒田 1999:211) となっていくことは間違いないだろう。こうしたシンボル化に加担したラジオ塔を検討する作業は、国外での調査なしに不可能である。ラジオ塔をめぐるメディア利用の実態や、国外のラジオ塔建設に従事した放送人の存在を掘り起こすことでこれに応えたい。別稿を期す。

## 注

- (1) 渡辺治男は、この時にラジオ塔の写真撮影に訪れた男性を一幡公平だと記しているが(渡辺 2021:59)、一幡が訪れたのは2017年6月であり、2016年2月に訪れた男性は別人物である(一幡 2017:12)。
- (2) 「名古屋市なんでも調査団」(<https://www.library.city.nagoya.jp/reference/nandemo.html#chap01>, 2023年2月6日アクセス)
- (3) 『新潟市公報』458号昭和7年11月25日(金曜日)7頁には、寄付受理の公的記録が記されている。
  - 寄附受理
  - 白山公園備付指定寄附
  - 一、ラヂオ塔 壱基
  - 但受信装置其他附属品一式共
  - 価格 金五百圓
  - 社団法人日本放送協会関東支部
- (4) 判読不明の文字については●を表記した。以下同様の対応とする。
- (5) 「公文書(件名)」([https://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G000065402kenmei](https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G000065402kenmei), 2023年2月6日アクセス)
- (6) 調査団により、港北公園のラジオ塔については先んじて確認・発表されている。
- (7) (6)に同じ。

## 参考文献

- 『中日新聞』「ラジオ塔 戦争語り継ぐ」(2017年2月25日, 22面)
- 人見佐知子, 2019, 「ラジオ塔についての覚書」『民俗文化』31, 183-227.
- , 2020, 「天王寺公園のラジオ塔」『民俗文化』32, 49-64.
- 一幡公平, 2014, 『ラヂオ塔大百科2011-2014』タカノメ特殊部隊
- , 2017, 『ラヂオ塔大百科2017』タカノメ特殊部隊
- JOCK 欄, 1933a, 「JOCK 欄 ラヂオ塔受難」『ラヂオの日本』16(5):72-74.
- , 1933b, 「JOCK 欄 CK名古屋のラヂオ塔を解剖すれば」『ラヂオの日本』16(6):66-68.
- , 1933c, 「JOCK 欄 東海支部管内のラヂオ塔概要」『ラヂオの日本』17(1):73.

- 黒田勇, 1999, 『ラジオ体操の誕生』 青弓社
- 松浦國弘監修・近現代資料刊行会企画編集, 2015, 『近代都市環境研究資料叢書4 近代都市の衛生環境 名古屋編 37 都市計画・都市整備③』 近現代資料刊行会.
- 丸山友美, 2021, 「関西に残るメディア遺構——JOBK の建設したラジオ塔」『福山大学人間文化学部紀要』21, 13-25.  
———, 2022, 「関東に残るメディア遺構——JOAK の建設したラジオ塔」『福山大学人間文化学部紀要』22, 15-27.
- 村上聖一, 2017, 「放送史への新たなアプローチ①放送の「地域性」の形成過程——ラジオ時代の地域放送の分析」『放送研究と調査』67(1):28-47.
- 名古屋市図書館名古屋なんでも調査団, 2019, 「近所の公園に灯ろうに似た石の塔があります。友人にあれば「ラジオ塔」だと教えてもらいましたが、ラジオが受信できるようには見えません。名古屋のラジオ塔について教えてください」『調査団報告書』調査 No. 85, [https://www.library.city.nagoya.jp/img/reference/chosahoukoku\\_85.pdf](https://www.library.city.nagoya.jp/img/reference/chosahoukoku_85.pdf), 2023年1月28日アクセス.
- 名古屋都市センター, 2013, 『平成24年度NUI特別レポート 戦前の名古屋都市計画公園史について』, <http://www.nup.or.jp/nui/user/media/document/investigation/h24/NUI.aoki.pdf>, 2023年2月6日アクセス.
- 新潟市, 2000, 『新潟歴史双書4 白山公園あたり』新潟市.  
『新潟市公報』(第458号, 昭和7年11月25日(金曜日))  
『新潟新聞』「新潟放送局の開始」(1931年11月11日, 1面)  
——— 「記念のラヂオ塔」(1932年11月11日, 1面)  
——— 「新潟放送局で開局一周年記念」(1932年11月11日, 1面)  
——— 「白山のラヂオ塔竣成」(1932年11月11日, 4面)  
——— 「陽光輝く白山にQKラヂオ塔竣工式」(1932年11月12日, 4面)  
『東北時報』「新潟のユーモア」(1933年6月4日, 5面)
- 柴田昭彦, 2021, 『旗振り山と航空灯台』ナカニシヤ.  
『新愛知』「桜花の下でラヂオ聴く麗かさ」(1933年3月31日, 2面)
- 辻泉, 2011, 「メディア・イベントとしての地デジ化」『Chuo Online』, <https://yab.yomiuri.co.jp/adv/chuo/opinion/20110912.html>, 2023年2月6日アクセス.
- 渡辺治男, 2021, 「ラジオ塔について」『産業遺産研究』28:57-61.
- 吉井正彦, 2011, 「「ラヂオ塔」を訪ね歩く」『月刊みんぱく』36(5):16-17.
- 吉見俊哉, 1996, 「メディア・イベント概念の諸相」津金澤聡広編著『近代日本のメディア・イベント』同文館, 3-30.

## 付記

本稿は、JSPS 科研費 20K22157 の助成を受けた研究成果の一部である。なお、一次資料の調査に当たっては、新潟県立文書館及びひまぼーと新潟市立中央図書館、新潟市歴史博物館みなとびあの学芸員並びに司書の皆さんと、市政資料館及び名古屋市鶴舞中央図書館の学芸員並びに司書の皆さん、そしてNHK 放送博物館とNHK 放送文化研究所の皆さんにご協力いただいた。現地調査に当たっては、各地で活動されている研究者の皆さんにご指導いただいた。記して感謝する。ありがとうございました。

## Media Remains in Tokai Area: Radio Pagoda built by JOCK and Citizens

Tomomi MARUYAMA

This paper examines the radio pagodas erected by the Tokai Branch (JOCK) of Nihon-Hoso-Kyokai (NHK, Japan Broadcasting Corporation) and Citizens from 1933 to 1943 from three points. First, it examines why the locality found in the radio pagodas, built as a commemorative project to celebrate the one-millionth anniversary of its subscribers, were bleached. Second, this article identifies the actors who ensured the locality of the radio pagodas. And thirdly, this paper shows how the 1933 birth of the Crown Prince turned the construction of the radio pagodas into a media event. Through the above work, this paper reveals that the locality of radio pagodas built and donated by citizens was bleached out, and they came to be accepted and consumed as objects with a purpose that converged with the national goal of “improving the status quo.”

【Keywords: Radio Pagoda, Media Remains, JOCK, Production Studies】

## 聴覚オッドボール課題における事象関連電位に対する Dark Triadパーソナリティの影響

白尾 綾音<sup>1</sup> 平 伸二<sup>2</sup> 大杉 朱美<sup>2</sup> 皿谷 陽子<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>福山大学大学院人間科学研究科 <sup>2</sup>心理学科 <sup>3</sup>人間環境大学心理学部)

我々の最終的な研究目的は、事象関連電位を指標とした隠匿情報検査にパーソナリティ要因がどのように影響するかを明らかにすることである。その目的の前段階として、ダークなパーソナリティであるDark Triad(サイコパシー傾向、マキャベリアニズム、自己愛傾向)が、オッドボール課題時の事象関連電位に与える影響を検討した。本実験では、大学生20名に対して聴覚刺激による標準オッドボール課題を実施し、標的刺激と標準刺激に対するP300とN550を高群と低群に分けて比較した。その結果、P300とN550に刺激の主効果は認められたが、群の主効果及び群と刺激の交互作用は認められなかった。このことから、聴覚刺激による標準オッドボール課題の事象関連電位は、Dark Triadの影響を受けていないことが明らかとなった。今後の研究では、模擬犯罪課題を用いた隠匿情報検査を実施し、Dark Triadが検出率に及ぼす影響を検討する予定である。

【キーワード サイコパシー傾向 マキャベリアニズム 自己愛傾向 聴覚オッドボール課題 事象関連電位】

日本の犯罪捜査におけるポリグラフ検査は、複数の末梢神経系反応を指標として、情報検出に基づく隠匿情報検査 (concealed information test: 以下、CITとする) のみで実施されている。通常は、犯罪捜査における取調べに先行して、特に犯罪捜査などの事情聴取の過程で、特定の事実について知っているか否かを鑑別する手がかりとするものである。CITは、事件に関する複数の質問を提示して、その際の生理反応から、被検査者が事件に関する情報を有するか否かを判定する科学捜査的技法の一つとされている。CITは日本の犯罪捜査で使用されている。CITは犯罪事実である裁決質問と複数の中立な非裁決質問からなる多岐選択質問を使用する。たとえば、侵入窃盗事件の被害品が指輪であるならば、指輪を裁決質問として以下のような質問を作成する (平, 2005)。

「あなたが盗んだのは指輪ですか？」(裁決質問)

「あなたが盗んだのはネックレスですか？」(非裁決質問)

「あなたが盗んだのはイヤリングですか？」(非裁決質問)

「あなたが盗んだのはブローチですか？」(非裁決質問)

「あなたが盗んだのはブレスレットですか？」(非裁決質問)

もし、被検査者が無実の者であるならば、すべての質問に対して同じような反応を示すと考えられる。しかし、被検査者が犯人で被害品が指輪である事実を認識している場合、指輪のみに他の質問と異なる反応が現れる。検査では、生理反応の指標として、皮膚コンダクタンス反応 (skin conductance response: 以下、SCR とする)、心拍、規準化脈波容積 (normalized pulse volume: 以下、NPV とする)、呼吸運動といった複数の反応を同時に測定している (松田, 2016)。もし被検査者が特定の項目を認識しているとすれば、SCR の振幅増大、心拍数の減少、NPV の減少、呼吸の抑制、呼吸速度の減少、呼吸の停止などの反応が見られる。

CIT が情報検出に基づく検査であるため、事象関連電位 (event-related potential: 以下、ERP とする) による研究が1980年代から行われている。犯罪捜査におけるCITは、末梢神経系活動を指標として実施されているが、実験的には、中枢神経系の指標であるN2、P300、後期陽性電位 (late positive potential: 以下、LPP とする)、随伴陰性変動、N400も有効な指標と認められている (平, 2009; 松田, 2016)。そして、実務導入に最も可能性が高い指標は、ERPの中でもP300振幅である (平, 2009)。P300は、刺激がまれ (rare) で有意味 (meaningful) であり、課題関連性 (task relevancy) を持っている場合、刺激呈示後約300-900 msで生じる陽性電位のことである。被検査者が犯人である場合、裁決質問は有意な情報として検出される。この情報は自動的処理で定位反応を生起させ、N2、P300振幅の増大に反映される。さらに、裁決質問を認識したことを隠すために、生理反応をモニターし抑制する制御的処理が発動する。これが心拍数の減少、呼吸の抑制、LPPの増大に反映されると考えられている (松田, 2016)。

ところで、CITは犯罪情報を知らなければ生理反応も生起しないため、無実の人を犯人と判定する誤判定 (false



positive error) の極めて少ない検査として国際的にも定評がある (Iacono & Lykken, 1997)。その一方で、犯人を無実と判定する誤判定 (false negative error) は、false positive errorより可能性が高く、その要因の一つとして、パーソナリティ等の個人差要因が指摘されている (Ben-Shakhar & Furedy, 1990)。

本研究では、パーソナリティ要因の中でも、共感や罪悪感が低く、適切な対人関係の構築に問題を抱えやすい人たちが共通して持つ個人特性であるDark Triad (以下、DTとする) を取り上げる。DTは、サイコパシー (psychopathy) 傾向、マキャベリアニズム (Machiavellianism)、自己愛 (narcissism) 傾向の3つのダークなパーソナリティからなっている。これら3つのダークなパーソナリティは、いずれも共通して利己的で冷淡、かつ他者を自分の思い通りに操る傾向性にあることから、人の「ダークさ」を表したパーソナリティ特性としてDTと総称されている (増井・浦, 2018 ; Paulhus & Williams, 2002)。

サイコパシーは、Cleckley (1976) によって定式化されたパーソナリティ障害である。サイコパシー傾向の特徴として、表面的な魅力、不安の欠如、罪悪感の欠如、信頼できないこと、不誠実、自己中心的、親しい関係を継続して作れないこと、罰から学ばないこと、情動の乏しさ、自分の行動が他人に及ぼす影響を考慮することができないこと、将来の計画が立てられないことなどが挙げられる。マキャベリアニズムは、Christie & Geis (1970) によって提唱された。マキャベリアニズムの特徴として、操作的な対人戦略、人間の本質に対する冷めた見方、道理よりも便宜を優先する道德観が挙げられる (O'Boyle et al., 2012)。自己愛は、Raskin & Hall (1979) によってパーソナリティ特性として扱われるようになった概念である。自己愛傾向の特徴として、自己への過度な陶酔、誇大的空想、他者からの注目や賞賛の追求、権力・美への欲求などが挙げられる (Kernberg, 1975)。

ERP とサイコパス (本研究では、サイコパシーはパーソナリティ障害全般を指し、サイコパスは障害と診断された個人を指す) に関する研究に Kiehl et al. (1999) がある。Kiehl et al. (1999) は、標準オッドボール課題による ERP を指標とした研究を実施している。標準オッドボール課題とは、呈示頻度の低い刺激 (低頻度呈示刺激) と高い刺激 (高頻度呈示刺激) をランダムに呈示して、低頻度呈示刺激に対してできるだけ早く正確にボタン押しをする課題である。その結果、サイコパスは非サイコパスと比較して標的刺激に対する P300 振幅が小さく、N550 振幅が大きいことを報告している。また、Verschuere et al. (2006) は、CITがサイコパシーによる影響を受ける懸念をレビュー論文で明らかにしている。彼らは、サイコパスとCITに関する5つの研究のうち3つが、裁決項目に対する皮膚電気活動の減少を報告していることを指摘した。そして、サイコパスの根底には感情欠落と反社会的行動の2側面があり、その側面には、それぞれ異なる精神生理学的相関があると考えられており、感情欠落は驚愕性の反射、反社会的行動は定位反応を減少させると報告している。Kiehl et al. (1999) は、サイコパスは標的刺激に対する振幅が減少した結果、非標的刺激との間に有意な P300 振幅差を見いだせなかったという結果から、サイコパスとCITに関する研究を末梢神経系のみならず、中枢神経系からも進めることを提案している。そして、刑務所に収容されたサイコパスを対象とした機能的磁気共鳴画像法 (functional magnetic resonance imaging) による研究を進め、サイコパス傾向が高い人は前部帯状回の機能が低下していることを明らかにしている (Abe et al., 2018)。また、O'Boyle et al. (2012) のDTに関するメタ分析によると、マキャベリアニズム-自己愛傾向間で  $r=.30$ 、マキャベリアニズム-サイコパシー傾向間で  $r=.59$ 、自己愛傾向-サイコパシー傾向間で  $r=.51$  の相関が示されている。これらのことから中枢神経系の指標であるERPに関しても、サイコパス及びサイコパスと相関があるとされるマキャベリアニズムと自己愛傾向についても検討が必要である。

以上、我々の研究の最終目的は、ERPを指標としたCITにダークなパーソナリティ要因がどのように影響するかを明らかにすることであるが、その前段階として、DT (サイコパシー傾向、マキャベリアニズム、自己愛傾向) が、オッドボール課題時のERPのP300振幅とN550振幅に与える影響を検討する。これは、Kiehl et al. (1991) がオッドボール課題を用いて、サイコパスにおける標的刺激のP300振幅の減少とN550振幅の増大を報告しているからである。そして、O'Boyle et al. (2012) の研究から、DTの3つのパーソナリティに



関して、Kiehl et al. (1991) と同様に標的刺激に対する P300 振幅の減少と N550 振幅の増大を予想する。

## 方法

**実験参加者** 参加者は大学生20名 (男性4名, 女性15名, その他1名) で平均年齢20.8歳 ( $SD = 1.06$ ) であった。参加者には事前に実験に関する説明を行い、文書による実験参加への同意を得た。

**質問紙** 日本語版Short Dark Triad (下司・小塩, 2017) を用い、総得点とサイコパシー傾向、マキャベリアニズム、自己愛傾向の下位尺度別に得点化した。項目数は全27項目であり、サイコパシー傾向が「私は目上の人に仕返しや報復をしたいと思うことがある」などの9項目、マキャベリアニズムが「他の誰かに自分の秘密を教えないということは賢明なことだ」などの9項目、自己愛傾向が「周りの人は私を生まれながらのリーダーだと思っている」などの9項目で構成されている。回答は、「全くそう思わない (1点)」から「非常にそう思う (5点)」までの5件法で回答を求めた。

**装置** 脳波測定には、ミュキ技研生体信号収録装置ポリメイトVAP5148一式を使用した。聴覚刺激は、刺激出力シーケンス2プログラム (Stimuli Output Sequencer Program 第2版 NoruPro Light Systems) で呈示した。

**指標** 脳波は国際10-20法に従い、正中線上の前頭部 (Fz)、中心部 (Cz)、頭頂部 (Pz)の頭皮上各部位に皿電極を電極のり (日本光電製, Elefix)で固定し、基準電極は両耳朶として脳波を測定した。上下方向の眼球電図は左眼窩上下縁部から導出し、脳波に影響するアーチファクトを監視した。ERPは、刺激呈示前200 ms から刺激呈示後800 ms の1000 ms間を加算平均の対象区間とした。この期間内に100  $\mu V$ 以上の電位が生じた試行は、加算平均処理の対象外とした。

**刺激** 聴覚刺激として、低頻度呈示刺激 (標的刺激) が2000 Hz, 高頻度呈示刺激 (標準刺激) が1000 Hzの純音、呈示比率は20%対80%であり、刺激間隔は1500 ms  $\pm$  25%でランダムに呈示した。聴覚刺激は、両耳に固定したヘッドホン (SONY製, MDR-1RNC MK2) により50dBで呈示した。

**手続き** 実験参加者は、研究室で実験に関する説明を受け、同意書に署名をした。その後、実験者は標準オッドボール課題の説明をし、低頻度呈示刺激が呈示されたら、できるだけ早く正確に利き手に持ったボタンを押すように伝えた。また、実験中瞬きをできるだけ少なくするようにと教示した。課題後、日本語版Short Dark Triadへの回答を求め、実験を終了した。

**結果の処理** P300によるCITの先行研究では、Pz優位にP300が生起している (平・濱本, 2008)、本実験では、Pzにおける脳波を分析対象とした。各刺激20回を加算平均して刺激別にP300最大振幅 (刺激呈示後280-380 ms) とN550最大振幅 (刺激呈示後550-650 ms) を求めた。また、 $t$ 検定と各尺度の因子ごとの群 (高群・低群) と刺激 (標的刺激・標準刺激) に対するP300振幅とN550振幅の2要因分散分析は、HAD\_Version17 (清水, 2016) を用いて分析した。

**倫理的配慮** 本実験は、福山大学学術研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した (承認番号2021-H-25号)。

## 結果

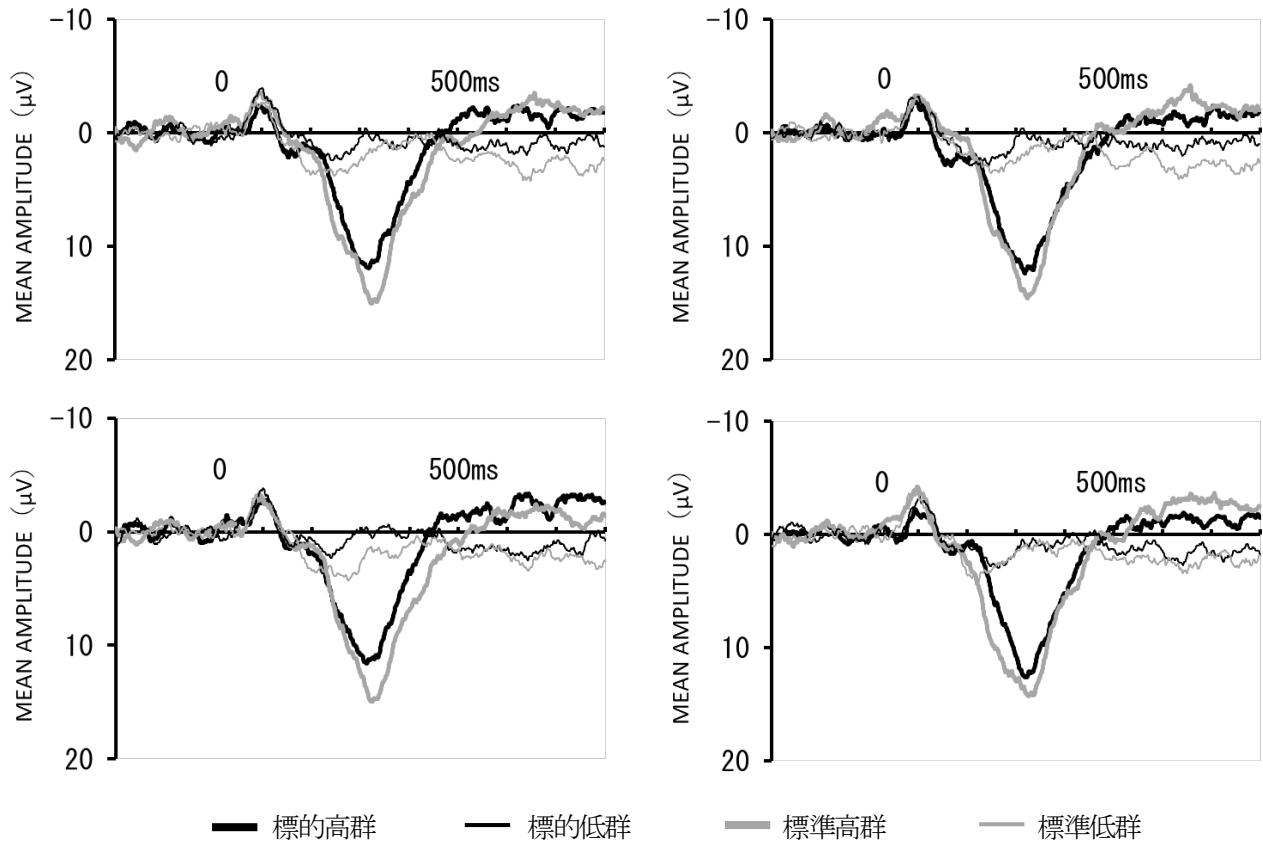
日本語版Short Dark Triadから合計を算出し、合計得点の高い者を高群、合計得点の低い者を低群に分類した。各項目の高群・低群は、DT (高群10名, 低群10名)、サイコパシー傾向 (高群10名, 低群10名)、マキャベリアニズム (高群9名, 低群11名)、自己愛傾向 (高群11名, 低群9名) であった。DTと各DT尺度において、高群と低群の平均値を $t$ 検定で分析した結果、何れも高群の平均値が低群よりも有意に高くなっていた (DT:  $t(18) = 5.14, p < .001, d = 2.20, 95\%CI [1.10, 3.31]$ , サイコパシー傾向:  $t(18) = 6.01, p < .001, d = 2.58, 95\%CI [1.39, 3.76]$ , マキャベリアニズム:  $t(18) = 5.35, p < .001, d = 2.31, 95\%CI [1.17, 3.44]$ , 自己愛傾向:  $t(18) = 7.45, p < .001, d = 3.21, 95\%CI [1.86, 4.55]$ )。

Figure 1はDTとDTの下位尺度の高群と低群における標的刺激と標準刺激の総加算平均波形 (Pz) である。すべての尺度において、刺激呈示後300 ms付近に標的刺激 (太線) に対するP300の増大が見られる。また、

刺激呈示後500 ms以降を見ると標準刺激よりも標的刺激の方がより陰性方向に振れているのが分かる。

Figure 1

DTと各DT尺度の高群と低群における標的刺激と標準刺激に対するPzの総加算平均波形

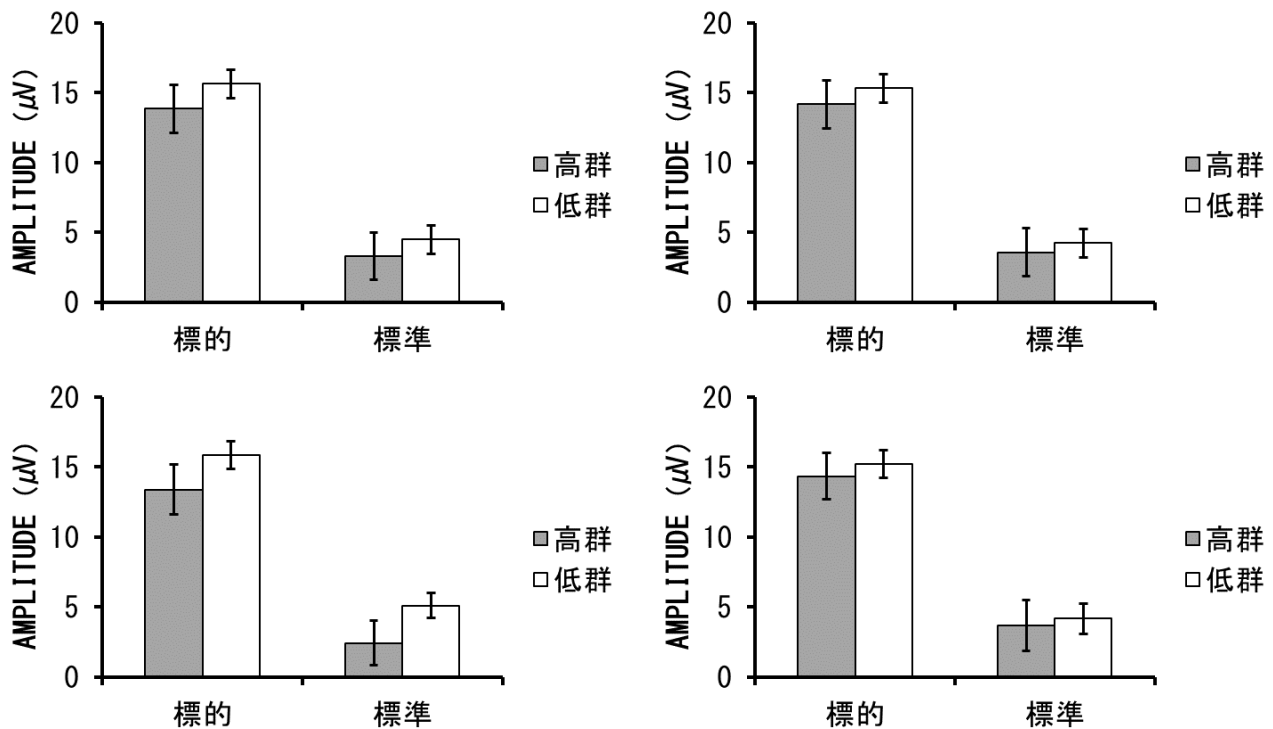


(上段: DT(左), サイコパシー傾向(右), 下段: マキャベリアニズム(左), 自己愛傾向(右))

Figure 2は、DTと各DT尺度の高群・低群における各刺激に対するP300振幅(Pz)である。DTと各DT尺度について、群(高・低)×刺激(標的・標準)の2要因の分散分析を行った。その結果、DTでは、標準刺激よりも標的刺激の振幅が有意に増大したが( $F(1, 18)=107.85, p<.001$ , 偏 $\eta^2=.86$ ), 群の主効果( $F(1, 18)=0.78, p=.39$ , 偏 $\eta^2=.04, 95\%CI[.00, .29]$ )及び群と刺激の交互作用( $F(1, 18)=0.09, p=.77$ , 偏 $\eta^2=.01$ )は認められなかった。同様に、サイコパシー傾向では、標的刺激の振幅が有意に増大したが( $F(1, 18)=107.64, p<.001$ , 偏 $\eta^2=.86$ ), 群の主効果( $F(1, 18)=0.29, p=.60$ , 偏 $\eta^2=.02, 95\%CI[.00, .23]$ )及び群と刺激の交互作用( $F(1, 18)=0.05, p=.83$ , 偏 $\eta^2=.03$ )は認められなかった。マキャベリアニズムでも、標的刺激の振幅が有意に増大したが( $F(1, 18)=106.59, p<.001$ , 偏 $\eta^2=.86$ ), 群の主効果( $F(1, 18)=2.54, p=.13$ , 偏 $\eta^2=-.69, 95\%CI[.00, .39]$ )及び群と刺激の交互作用( $F(1, 18)=0.01, p=.91$ , 偏 $\eta^2=.00$ )は認められなかった。自己愛傾向でも、標的刺激の振幅が有意に増大したが( $F(1, 18)=106.83, p<.001$ , 偏 $\eta^2=.86$ ), 群の主効果( $F(1, 18)=0.16, p=.70$ , 偏 $\eta^2=.01, 95\%CI[.00, .21]$ )及び群と刺激の交互作用( $F(1, 18)=0.03, p=.86$ , 偏 $\eta^2=.00$ )は認められなかった。

Figure 2

DTと各DT尺度の高群・低群における各刺激に対するP300振幅



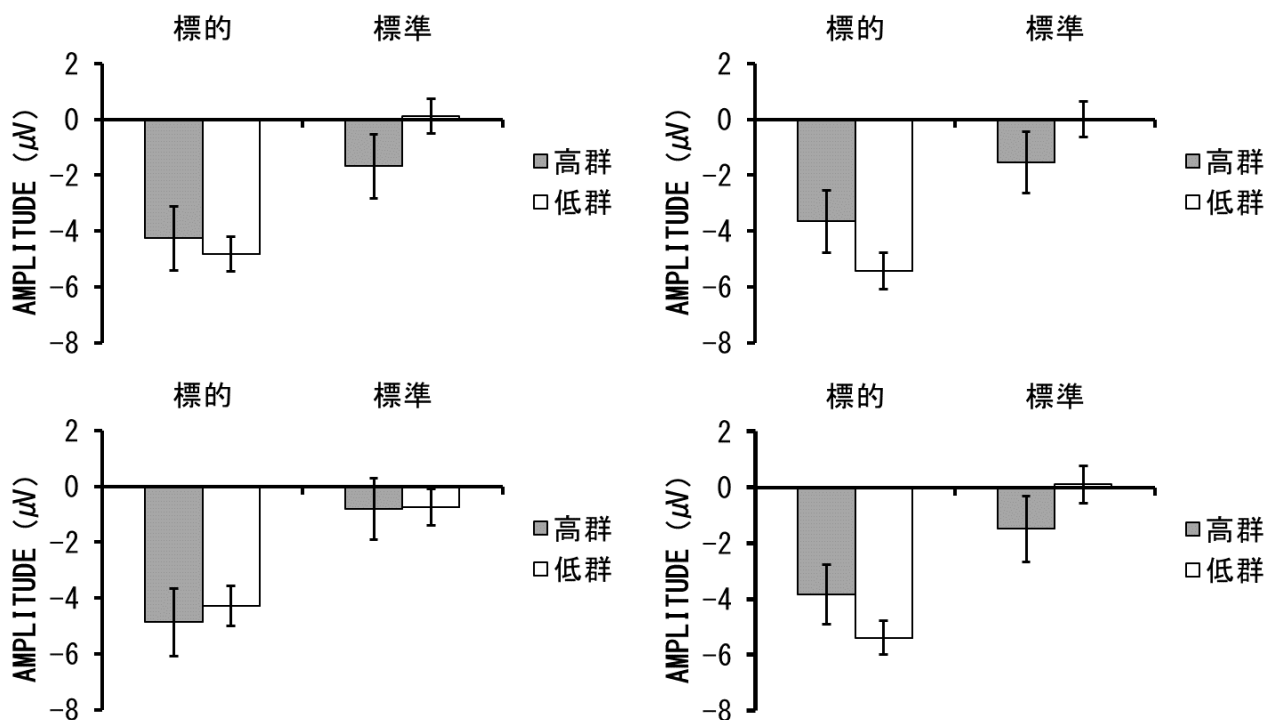
注) エラーバーは標準誤差を示す。

(上段: DT(左), サイコパシー傾向(右), 下段: マキャベリアニズム(左), 自己愛傾向(右))

Figure 3 は、DT と各 DT 尺度の高群・低群における各刺激に対する N550 振幅である。DT と各 DT 尺度について、群 (高・低) × 刺激 (標的・標準) の 2 要因の分散分析を行った。その結果、DT では、標準刺激よりも標的刺激の振幅が有意に増大したが ( $F(1, 18) = 15.20, p < .01$ , 偏  $\eta^2 = .46$ ), 群の主効果 ( $F(1, 18) = 0.50, p = .49$ , 偏  $\eta^2 = .03$ , 95%CI [.00, .26]) 及び群と刺激の交互作用 ( $F(1, 18) = 1.51, p = .24$ , 偏  $\eta^2 = .08$ ) は認められなかった。同様に、サイコパシー傾向では、標的刺激の振幅が有意に増大したが ( $F(1, 18) = 16.50, p < .01$ , 偏  $\eta^2 = .48$ ), 群の主効果 ( $F(1, 18) = 0.02, p = .90$ , 偏  $\eta^2 = .00$ , 95%CI [.00, .13]) 及び群と刺激の交互作用 ( $F(1, 18) = 3.18, p = .09$ , 偏  $\eta^2 = .15$ ) は認められなかった。マキャベリアニズムでも、標的刺激の振幅が有意に増大したが ( $F(1, 18) = 14.12, p < .01$ , 偏  $\eta^2 = .44$ ), 群の主効果 ( $F(1, 18) = 0.13, p = .72$ , 偏  $\eta^2 = .001$ , 95%CI [.00, .20]) 及び群と刺激の交互作用 ( $F(1, 18) = 0.07, p = .80$ , 偏  $\eta^2 = .004$ ) は認められなかった。自己愛傾向でも、標的刺激の振幅が有意に増大したが ( $F(1, 18) = 17.40, p < .01$ , 偏  $\eta^2 = .49$ ), 群の主効果 ( $F(1, 18) = 0.00, p = .98$ , 偏  $\eta^2 = .00$ , 95%CI [.00, .00]) 及び群と刺激の交互作用 ( $F(1, 18) = 2.79, p = .11$ , 偏  $\eta^2 = .13$ ) は認められなかった。

Figure 3

DTと各DT尺度の高群・低群における各刺激に対するN550振幅



注) エラーバーは標準誤差を示す。

(上段: DT(左), サイコパシー傾向(右), 下段: マキャベリアニズム(左), 自己愛傾向(右))

### 考察

本研究では、ダークなパーソナリティであるDTと各DT尺度 (サイコパシー傾向, マキャベリアニズム, 自己愛傾向) が、オッドボール課題時のERPに与える影響を検討することであった。その結果、P300振幅は、DTと各DT尺度のすべてにおいて、標準刺激よりも標的刺激の方が有意に増大していた。この結果は、標準的オッドボール課題では、呈示頻度が低く、ボタン押しを求められる標的刺激に対しては、標準刺激に比較して振幅が増大することは多くの研究が示しており(入野, 2013), それを支持する結果となった。一方、DTと各DT尺度のすべてにおいて、群の主効果及び群と刺激の交互作用は認められなかった。これらの結果は、Kiehl et al. (1999) が、サイコパスは非サイコパスと比較して、標的刺激に対するP300振幅が減少したという結果を支持しなかった。また、同様にN550振幅についても、刺激の主効果のみが認められ、群の主効果及び群と刺激の交互作用は、DTと各DT尺度のすべてにおいて認められなかった。

本研究の結果は、DT及びサイコパシー傾向, マキャベリアニズム, 自己愛傾向が、オッドボール課題時のERPのP300振幅とN550振幅に影響を与えないことを示唆している。これは本研究で対象とした健常者レベルのダークなパーソナリティ要因では、大脳での電気生理学的処理に影響を与えないと考えることができる。したがって、ERPによるCITに関しても影響がなく、検出率を低下させるなどの結果を回避できる可能性を示唆する。但し、本研究とKiehl et al. (1999) の研究結果の相違は、呈示した刺激のモダリティの違いも関係していると考えられる。本研究は単純な純音による聴覚刺激であったため、刺激の弁別が容易でP300潜時にばらつきがないことから顕著なP300振幅が得られる。一方、Kiehl et al. (1999) の研究は聴覚刺激ではなく、本実験の音刺激よりも複雑な視覚刺激(異なる大きさの四角形)の弁別であったため、刺激の弁別が困難となり、刺激の認知にかかる時間を反映するP300潜時がばらつくことから、P300振幅が減少する可能性がある。さらに、聴覚刺激は半ば自動的に処理されるのに対し、視覚刺激は呈示刺激に対する注意配分が低下すれば、P300振幅の減少に結び付く。実際、Kiehl et al. (1999) は、サイコパス

でのP300振幅の減少は、注意を持続的に維持できなかつたり、要求された課題に注意資源をうまく配分出来なかつたりすることが原因としている。一方、N550振幅の増大は、P300振幅が小さいことで陰性よりにシフトしているために副次的に生じた増大であることを示唆している。

また、本研究の結果が、Kiehl et al. (1999) の報告と異なった原因としては、実験に参加した対象者の違いが考えられる。Kiehl et al. (1999) の研究では、刑務所に収容されているサイコパスを対象としていたのに対し、本研究は大学生を実験参加者としていた。つまり、本研究と比較してKiehl et al. (1999) の実験結果は、実際のサイコパスのデータであり、刑務所に収容されたサイコパシー傾向の強いサイコパスの特徴が反映されていたと推察される。また、Kiehl et al. (1999) と同様の結果が、Gao et al. (2011) の研究でも示されている。彼らは、聴覚的3刺激オッドボール課題に対するP300振幅と潜時を評価した結果、健常者に比べて前歴のあるサイコパス (unsuccessful psychopath) は、標的刺激に対する頭頂部P300振幅の減少が認められた。一方、前歴のないサイコパス (successful psychopath) は、前歴のあるサイコパスに比べて、標準刺激に対する頭頂部のP300振幅が大きく、前頭部P300潜時が短いことが示された。つまり、前歴のあるサイコパスのみでP300振幅が減少することを見出している。

本研究において、健常な大学生を実験参加者として研究を行ったため、DT と各 DT 尺度の高群と低群に有意差が見られなかったと考えられる。しかし、サイコパス研究で著名な Hare は、外見上は社会適応しているが、潜在化した問題を抱えている人も多いと著書“Snakes in suits”で指摘している (Babiak & Hare, 2007)。また、日本でもホワイトカラー・サイコパスのような、社会的に成功している DT による犯罪増加が見込まれる。したがって、我が国でも犯罪歴のあるサイコパス、犯罪歴のないサイコパス、健常者による比較研究が望まれる。また、実際の犯罪では犯行に伴う緊張や悲惨な場面の体験、発覚への恐怖などの情動要因が喚起されることは容易に想像できる。今後、ERPによるCITへのダークなパーソナリティの影響を検証するため、CIT 研究で課題への関与を高めるために使用されている模擬犯罪課題、及び情動を喚起する画像の呈示による実験を進めていきたい。

## 引用文献

- Babiak, P., & Hare, R. D. (2007). *Snakes in Suits: When Psychopaths Go to Work*. HarperCollins Publishers.
- Ben-Shakhar, G., Furedy, J. J. (1990). *Theories and Applications in the Detection of Deception: A Psychophysiological and International Perspective*. Springer-Verlag.
- Christie, R. C., & Geis, F. L. (1970). *Studies in Machiavellianism*. Academic press.
- Cleckley, H. M. (1976). *The Mask of Sanity*. (5th ed.). Mosby.
- Gao, Y., Raine, A., & Schug, R. A. (2011). P3 event-related potentials and childhood maltreatment in successful and unsuccessful psychopaths. *Brain and Cognition*, 77, 176-182.
- 平 伸二 (2005). 虚偽検出に対する心理学の貢献と課題 心理学評論, 48, 384-399.  
[https://doi.org/10.24602/sjpr.48.3\\_384](https://doi.org/10.24602/sjpr.48.3_384)
- 平 伸二 (2009). 脳機能研究による concealed information test の動向 生理心理学と精神生理学, 27, 57-70.  
<https://doi.org/10.5674/jjppp.27.57>
- 平 伸二・濱本 有希 (2008). 1 ヶ月経過後の P300 による虚偽検出における記憶活性化の影響 ——中心記憶と周辺記憶の比較—— 福山大学人間文化学部紀要, 8, 129-139.
- Iacono, W.G., & Lykken, D.T. (1997). The validity of the lie detector: Two surveys of scientific opinion. *Journal of Applied Psychology*, 82, 426-433.
- Kernberg, O. (1975). *Borderline Conditions and Pathological Narcissism*. Jason Aronson.
- Kiehl, K.A., Hare, R.D., Liddle, P.F., & McDonald, J.J. (1999). Reduced P300 responses in criminal psychopaths during a visual oddball task. *Biological Psychiatry*, 45, 1498-1507.
- 増井 啓太・浦 光博 (2018). 「ダークな」人たちの対応戦略 心理学評論, 61, 330-343.

[https://doi.org/10.24602/sjpr.61.3\\_330](https://doi.org/10.24602/sjpr.61.3_330)

松田 いづみ (2016). 隠すことの心理生理学——隠匿情報検査からわかったこと—— 心理学評論, 59, 162-180.

[https://doi.org/10.24602/sjpr.59.2\\_162](https://doi.org/10.24602/sjpr.59.2_162)

入戸野 宏 (2013). P300 応用 認知科学の立場から 臨床神経生理学, 41, 86-92.

O'Boyle, E. H. Jr., Forsyth, D. R., Banks, G. C., & McDaniel, M.A. (2012). A meta-analysis of the Dark Triad and work behavior: A social exchange perspective. *Journal of Applied Psychology*, 97, 557-579.

Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The Dark Triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of research in Personality*, 36, 556-563.

Raskin, R., & Hall, C. S. (1979). A narcissistic personality inventory. *Psychological Reports*, 45, 590.

清水 裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD——機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案—— メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.

下司 忠大・小塩 真司 (2017). 日本語版 Short Dark Triad(SD3-J)の作成 パーソナリティ研究, 26, 12-22.

<https://doi.org/10.2132/personality.26.1.2>

Verschuere, B., Crombez, G., Koster, H. W., & Uzieblo, K. (2006). Psychopathy and physiological detection of Concealed Information: A review. *Psychological Belgica*, 46, 99-116.

\*本研究の内容の一部は、第40回日本生理心理学会大会・日本感情心理学会第30回大会合同大会2022において発表した。

\*\*本研究はJSPS 科研費21K03120の助成を受けたものである。

# Effects of Dark Triad Personality on Event-Related Potentials in an Auditory Oddball Task

Ayane SHIRAO, Shinji HIRA, Akemi OSUGI and Yoko SARAGAI

Our ultimate research goal is to determine how personality factors influence the concealed information test using event-related potentials. As a preliminary step, we examined the effects of the Dark Triad (psychopathy, Machiavellianism, and narcissism) on event-related potentials during an oddball task. In this experiment, 20 undergraduate students were administered a standard oddball task with auditory stimuli, and P300 and N550 responses to the target and standard stimuli were compared between high and low scoring groups. Results showed a main effect of stimuli on P300 and N550 responses, but no main effect of group or interaction between group and stimuli. This indicates that the event-related potentials of the standard oddball task with auditory stimuli were not affected by the dark triad. Future studies will examine the effect of the Dark Triad on detection rates by conducting a concealed information test using a simulated crime task.

**【KEY WORDS: psychopathy, Machiavellianism, narcissism, auditory oddball task, event-related potential】**

## 特定妊婦への支援に関わる一考察

日下部 典子  
(心理学科)

子どもの虐待は社会で大きな問題となっているなか、虐待の一要因として「特定妊婦」が注目されている。特定妊婦とは経済的・社会的加えて心理的な問題を抱えている妊婦を指しており、妊娠中はもちろんであるが、出産後も母親の自殺率が高いこと、子どもへの虐待をはじめとした課題があることが明らかになってきている。そのような中で、特定妊婦への支援は急務であるが、先行研究を概観したところ、心理的面についてはほとんど明らかになっておらず、今後の調査が必要であることが明らかとなった。

【キーワード 特定妊婦 抑うつ傾向 不安傾向 ソーシャル・サポート】

### 【周産期における問題】

これまで周産期女性の死亡についての調査はほとんど行われていなかったが、2015～2016年の調査の結果、妊産婦の自殺者は102名で、周産期の死亡理由の第一位は自殺であることが明らかとなった（国立成育医療センター，2022）。妊産婦死亡率において、産科的な身体疾患と比べて自殺による死亡数の方が多い（加茂，2017）。妊娠中の自殺は胎児の死亡に繋がり、周産期では子どもを巻き込む事例も見受けられ、周産期の自殺予防は対応が急がれる課題である。周産期の自殺原因には産褥精神病・産後うつ病等があげられている中、産後うつ病の出現率は10～15%と決して低いとは言えない（森川，2021）。産後うつ病のハイリスク要因の一つに妊娠中のメンタルヘルス不良がある（Boyce, 2003 ; Nolen-Hoeksema, 1991）。妊婦のメンタルヘルスは胎児への影響はもちろん、出産後の子どもの心理的問題や虐待のリスク要因でもあることから、妊婦の心理的課題への介入は重要である（兼次・仲西，2022 ; 水主川，2021）。また、一般的にうつ病が自殺のリスク要因であることから、妊娠中のメンタルヘルスケアは産褥期の自殺予防にも有効であると考えられる。

さらに、最近問題になっているのが、乳児への虐待予防の観点からの妊婦への対応の必要性である。虐待予防の観点から、児童福祉法（2009）において特定妊婦が定義され、その支援の必要性が明らかとなっている。厚生労働省（2016）の特定妊婦の情報提供に関わる報告書から、このような法改正の背景には子どもの虐待による死亡事例の検証結果から、心中以外の虐待による子どもの死亡事例において、0歳児の割合が約4割を占めていることがあげられる。さらに、0歳児の虐待の背景として、妊娠期から悩みがある事、産前産後の心身の不調、家庭環境などの問題があると述べられている。

### 【特定妊婦について】

これまでに、支援や介入を必要とする妊婦はハイリスク妊婦と考えられてきたが、その中に「特定妊婦」が含まれていることが明らかとなってきた。特定妊婦は子どもの虐待防止の観点から注目されており、各自治体では、妊婦に対して特定妊婦に当たらないかの調査も実施されている。特定妊婦とは「出産後の養育について出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦」と定義されている（児童福祉法，2009）。厚労省（2016）による、このような特定妊婦の状況例としては、下記のような項目が目安とされている（厚労省，2016）。

- ・妊婦が18歳未満、あるいはパートナー20歳未満
- ・未婚やパートナーがいない
- ・母子健康手帳が未交付
- ・妊婦健康診査を未受診、あるいは定期的に受けていない



- ・産みたくない、あるいは育てる自信がない、妊娠について悩みがある
- ・出産準備をしていない、育児への不安が強い
- ・精神科の受診歴、相談歴がある
- ・心身に障害がある（あった）が、適切な治療がされていない
- ・被虐待歴がある
- ・理解力、コミュニケーションに問題がある
- ・経済的困難、妊娠・出産・育児に関する経済的不安
- ・サポートしてくれる人がいない、社会で孤立している

しかしこれらの項目はあくまでも一例であり、共通して必ずある要因、また心身に障害、精神科受診歴等があると書かれているが、その詳細は明らかにされていない。

子どもの虐待予防、あるいは子どもを連れての自殺予防の観点も含め、産後うつ病の予防、メンタルヘルスを考えたときに、特定妊婦への介入は喫緊の課題となっている。特定妊婦への支援はその実態把握が必要であるが（水主川, 2021）、上述したように、実態調査の項目は自治体ごとにばらつきがあり、また心身の不調として、不安傾向、抑うつ症状があると考えられているが、その症状は明らかにされていない。先に述べたように、特定妊婦に当たる妊婦は妊婦健康診査を未受診であったり、母子手帳の申請もしていなかったりする中、対象者を特定することが先決問題となっており、適切な支援が行われるに至っていないケースが多々あると考えられる。また経済的要因については福祉面からの支援がされるが、心理的要因についての支援については、その実態が明らかになっていないため、適切な支援もされていない。

### 【妊産婦のメンタルヘルス】

妊産婦のメンタルヘルスの問題は、産後うつ病や出産後の抑うつ系統、育児ストレス等と関連していることが明らかとなっている。これまでの調査結果から、妊娠中にも抑うつ傾向が高い人がいることは明らかとなっている（日下部, 2018, 2020）、適切な支援方法については開発途上である。

また、2020年からの新型コロナウイルス感染症感染への不安から外出を控えたり、従来のような対面での妊婦教室が開講されなかったり、妊婦同士が集まる催しの中止などは、妊婦の不安や抑うつ状態を助長したと推測され、COVID-19以来、抑うつ傾向が高い妊婦の割合はそれまでの2-3割から、半数近くとなっている（日下部, 2022）。このような抑うつや不安の維持要因の一つとして反すうがあり（Nolen-Hoeksema, 1991；高野・丹野, 2010）、反すうへの介入は抑うつ状態や不安の軽減に効果があると考えられている。反すうとは「その人にとって、否定的・嫌悪的な事柄を長い間、何度も繰り返し考え続けること（伊藤・上里, 2001）」であり、過去のネガティブな状況を繰り返し考え続けることを止められないことが問題となっている。妊産婦の抑うつや不安と反すうの関係に関する研究は少ないが、抑うつと反すうは正の相関関係にあることが明らかとなっている（日下部, 2022）。

また、妊娠中の抑うつや不安に関わる要因としてソーシャル・サポートの低さがある（Biaggia, 2016）。抑うつやストレスを軽減するコーピングとしてサポート希求があるが、このサポート希求に関連する要因として被援助志向性があり、被援助志向性が低いとサポート希求が難しく、抑うつ傾向が高い妊婦はサポートを十分得られておらず、被援助志向性が低いことが示されている（日下部, 2019）。

### 【特定妊婦に対する支援について】

特定妊婦についての先行研究の結果を明らかにするためにCiNii Article 及びGoogle Scholarで「特定妊婦」「不安」「抑うつ傾向」をキーワードとして検索した結果、特定妊婦に関する論文は看護や社会福祉、周産期医

学、保健医療等の学術雑誌、関連学会での発表が占めており、心理学系学術雑誌に掲載されている論文は見当たらなかった。すなわち、特定妊婦への支援は保健医療、福祉領域で検討されており（吉岡他、2016；兼続・仲西、2017など）、厚生労働省の指示の下、各自治体が行っているが、その心理的側面に関する研究はほとんど進んでいないと言ってよい状況である。

これまでの研究では、看護師が特定妊婦のクリーニング項目として80%以上の医療施設で採用されている項目として、精神科受診既往、精神疾患合併、障害合併、不安が強い、サポートの不足などが、心理学的支援を考える上でも重要な項目として挙げられている（岡野・玉上、2021）。加えて、保健師が現場で特定妊婦をスクリーニングする項目の検討もされているが、その支援については特定妊婦の精神疾患や不安、あるいはエジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）で確認されているうつ病傾向に特化した有効な支援は不明である。

特定妊婦の要因としてEPDSによる抑うつ状態、心理的不安を検討している自治体が多いことから、これらの状況について、心理学的視点から明らかにすることは、適切な介入や支援を行う上で重要であると考えられる。たとえば、抑うつ状態や不安と関わる反すうについて、特定妊婦を対象として、その関連を見ていくことは重要であろう。また、サポートに関することにも特定妊婦が問題を抱えている状況に対して、サポートを用いないこと・社会的孤立がソーシャル・ネットワークの問題なのか、性格的なことあるいは被援助志向性と関わっているのかを明らかにすることは、妊婦に保健師が関わるうえで有用な示唆を与えるものと思われる。

#### 【引用文献】

- Biaggia, A., Conroy, S., Pawlby S., & Pariante, C. M. (2016). Identifying the women at risk of antenatal anxiety and depression: A systematic review. *Journal of Affective Disorders, 191*, 62-77.
- Boyce, P. M. (2003). Risk factors for postnatal depression: a review and risk factors in Australian populations. *Archives of Women's Mental Health, 6*, 43-50.
- 兼次 洋介・仲西 正憲 (2022). 周産期支援チェックリストを用いた子ども虐待リスク予測. *日本周産期・新生児医学会雑誌, 58*, 472-278.
- 長谷川 晃・根建 金男 (2011). 抑うつの反すうとネガティブな反すうが抑うつに及ぼす影響の比較. *パーソナリティ研究, 19*, 270-273.
- 伊藤 拓・上里 一郎 (2001). ネガティブな反すう尺度の作成およびうつ状態との関連性の検討. *カウンセリング研究, 34*, 31-42.
- 加茂 登志子 (2017). 妊娠とメンタルヘルスケア—周産期うつ病に関するパラダイムシフトを中心に—. *女性心身医学, 21*, 258.
- 厚生労働省 (2016). 第5回市区町村の支援業務のあり方に関する検討WG参考資料. 雇用均等・児童家庭局総務課. 要支援児童等（特定妊婦を含む）の情報提供に関わる保険・医療・福祉・教育等の連携の一層の推進について.
- 日下部 典子 (2019). 妊婦の抑うつ傾向と被援助志向性. *福山大学人間文化学部紀要, 19*, 76-82.
- 日下部 典子 (2022). 妊産婦のメンタルヘルスに関わる要因. *福山大学人間文化学部紀要, 22*, 28-32.
- 丸山 知子・吉田 安子・杉山 厚子・須藤 桃代 (2001). 妊娠期・出産後2年間の女性の心理・社会的状態に関する調査. 第1報. 妊婦の心理・社会的状態. *女性心身医学会雑誌, 6*, 93-99.
- 水主川 純 (2021). 特定妊婦への対応と課題. *日本周産期・新生児医学会雑誌, 56*, 607-619.
- 森川 真子 (2021). 妊産婦のメンタルヘルスの実態と支援の方向性. *精神神経学雑誌, 123*, 732-739.
- Nolen-Hoeksema, S. (1991). Responses to depression and their effects on the duration of depressive episodes. *Journal of Abnormal Psychology, 100*, 569-582.
- 岡野 あすか・玉上麻美 (2021). 参加医療施設における支援を要する妊婦のスクリーニング方法の実態. *母性衛生, 61*, 554-563.

吉岡 京子他 (2016). 産後児童虐待の可能性の高いと保健師が判断した特定妊婦の特徴とその関連要因 日本公衆衛生看護学会誌, 5, 66-74.

## **A Study on Support for Specified Pregnant Women with Special Needs**

**Noriko KUSAKABE**

While child abuse has become a major problem in society, "pregnant women with special needs" are attracting attention as one of the causes of abuse. These pregnant women referred to have economic, social, and psychological problems, and it has become clear that there are problems such as high maternal suicide rates and child abuse not only during pregnancy but also after childbirth. Although support for those pregnant women is urgently needed, the psychological problems such as depression and anxiety had not clarified, and that future investigations were necessary.

**【Key words: pregnant women with special needs, depression, anxiety, social supports】**

## 「井伏鱒二と宮沢賢治の文学における郷土観」補論

### ―備後「穴の海」・古墳発掘に関する昭和十年代の情報と井伏作品をめぐって―

青木（秋枝）美保  
（人間文化学科）

前稿「井伏鱒二と宮沢賢治の文学における郷土観」では、井伏鱒二と同世代の宮沢賢治における郷土観がいずれも、郷土の古代の生活に根差し、そこに自身の精神の自由を補償する「内なる故郷」を構築していたことを指摘した。本稿は特に井伏鱒二の場合を取り上げて、その背景に、同時代の古代史の研究成果があることを、昭和初期の地域発行の郷土誌の情報から実証的に示し、井伏の作品への影響を指摘する。

【キーワード】 井伏鱒二、郷土史誌、古代史発掘

#### はじめに

本稿は、広島大学近代文学研究会編『近代文学試論 第六十号 特集 地域性と文学（二）』（二〇二二年十二月二十五日発行）に発表した拙稿「井伏鱒二と宮沢賢治の文学における郷土観―地域の古代に根差す「内なる故郷」を視座として―」（科学研究費基盤研究C「作家の文学形成と「地方同学コミュニティ」―井伏・高田と宮沢賢治の場合―二〇二〇年度～二〇二四年度の研究成果の一部）の補論である。拙稿において紙数の関係で割愛せざるを得なかった根拠資料を示すと同時に、その後新たに発見した資料を含めて、前稿を補強する。それは、井伏の郷土観に影響を与えたと思われる、備後地域の古代史における研究状況を示す資料である。

拙稿では、井伏の昭和十年代に発表された郷土に関する二編の随筆に見られる古代備後の「穴の海」についての記述、および、幼少の頃に井伏生家付近にある古墳で遊んだということなど、備後古代史を視座に郷土の姿が紹介されていることに注目し、その記述の背景に郷土誌『備後史談』における同年代の情報があることを示唆した。その郷土の古代への関心は、比較対象とした、井伏と同世代の宮沢賢治の文学にも同様にあり、両者には、それら古代史への関心から郷土の世界観を立ち上げる方向性があったこと、さらにその世界観が両者の「自由な精神」を補償したことを指摘した。井伏の場合には瀬戸内海の海人文化、賢治の場合には岩手山麓の縄文文化（山人文化）を基盤とする世界観があることを指摘した。

本稿の目的は、宮沢賢治について拙著『宮沢賢治 北方への志向』（注1）で示したと同様に、井伏文学の郷土観の背景となった郷土文化史の研究状況を、実証的に示すことである。

#### 1、井伏鱒二の郷土観の背景としての『備後史談』と昭和十年代の聖蹟調査

―郷土誌『備後史談』と郷土史家・濱本鶴賓―

井伏鱒二の郷土観を示す作品として拙稿でとり上げたのは、「郷里風土記」（『文芸』、改造社、第六卷第三号、昭和十三年三月一日発行）、「郷

里に寄す」（『知性』、第二巻第十号（十月号）、昭和十四年十月一日発行）の二編である。

随筆「郷里風土記」には、郷土について、次のようにある（注2）。

私の郷里は広島県深安郡加茂村である。初対面の人に云ふときには、郷里は備後ですとたいていさう云つてゐる。〔中略〕

備後は地勢的關係から東部の経済的中心地は福山市、西部の経済的中心地は尾道市である。〔中略〕ここは古い港で往時は軍事上の要港であった。足利尊氏なども四国で勢ひを盛り返して京都へ攻め入る前、三年間ほど尾道に軍を駐めて天下の形勢をうかがつてゐた。その三年間、尊氏は西国寺といふ古刹で坐禅をして一と振りの刀剣をこの寺に奉納した。その刀はいまでも保存されてゐる筈である。尾道よりも鞆の津はまだ古い時代の軍港であるが、今では画家や観光客の集まる遊覧地の觀を見せてゐる。この附近には神代以来の伝説的古跡がたくさんある。神武天皇の高島のお泊りをはじめ神功皇后が筑紫にお渡りになるときの水軍の根拠地など、その他いろいろ云ひつくせないほどたくさん古跡がある。しかしただ伝説的古跡にとどまるものか、役所でも史跡保存の方法を講じてゐない。北の山地にもいろいろの古い史跡がある。古事記で重要な比婆の山といふのはどの山か私は知らないが、比婆は今では伯耆でなく備後の領分である。むかし備後の盆地は奥行き深い入り海になつてゐたといはれるが、奈良の都と出雲との交通路はこの入り海の岸に沿つて通じてゐた。これは地理的にも考古学的にも史実的にも証明されてゐる。日本武尊が道中難渋されておいでになつたとき、一夜のお宿をお勧め申し御歎待申し上げた一土民の家は、いまでもその末孫といふ家族が英ちやんのうちの直ぐ裏の家で立派に暮らしてゐる。

〔中略〕このあたりから山地にかけて、南向きの斜面には古墳の集団がよく見つかつた。私も子供のとき裏の山で幾つとなく古墳を発掘し、土器をたくさん所有して遊戯のときに使用した。そのうちに瓢箪をつくることが備後全体の子供たちの間の流行となつて、私たちは土器で遊ぶのを止めて瓢箪の苗を自分で植ゑ自分でその実の種子をぬき自分で磨いて遊ぶのであつた。

ここには、「古事記」、「日本書紀」などを起源とする神話との關係で郷里の来歴が語られている。

拙稿では、これらの記述の背景に、昭和十五年を神武天皇即位二六〇〇年とする紀元節の祝賀行事の一環として行われた、文部省主催の全国一府九県に所在する三十六ヶ所の聖蹟調査に係つて発表された著書や論文があることを指摘した。福山市・岡山市に關連する調査対象の一つが「吉備高島宮」であり、その比定地について論争があつた。それらを背景に、地域では郷土史についての関心が高まり、古代史ブームがあつたことを指摘することができる。

その文献は、管見に入つたものだけで、次のようである。

▲濱本鶴賓『吉備高原考』 1911（明治44）・未見（誠之館人物誌による）

▲濱本鶴賓『改訂増補 吉備高島考』 1912（明治45）・未見（誠之館人物誌による）

・兼田明逸『吉備高島宮記』大正会（沼隈郡田島村） 1915（大正4）

▲濱本鶴賓『吉備高島宮址』吉備高島顕彰会 1935（昭和10）

・池田春美 濱本鶴賓校閲『神蹟吉備高島宮』吉備片島顕彰会 1935・4・8

- ・得能正通 「三備各地の高島宮址」 『備後史談』 13巻10号 1937 (昭和12年) ・ 10
  - ・得能正通 「二千六百年記念大祭及び祝典 吉備高島宮舟師御進発」 『備後史談』 14巻6号 1938 (昭和13年) ・ 6
  - ・熊田宗次郎 「吉備高島宮の聖蹟」 『備後史談』 15巻1号 1939 (昭和14年) ・ 1
  - ・熊田宗次郎 「吉備高島宮址について」 『備後史談』 15巻3号 1939 (昭和14年) ・ 3
  - ・金原利道 「神武天皇奉祀神社の分布上より見たる広島県に於る聖蹟に就ての一考察」 『備後史談』 15巻3号 1939 (昭和14年) ・ 3
  - ・兼田高洲 「吉備高島史蹟考(一)」 『備後史談』 15巻3号 1939 (昭和14年) ・ 3
  - ・兼田高洲 「吉備高島史蹟考(二)」 『備後史談』 15巻3号 1939 (昭和14年) ・ 3
  - ・兼田高洲 「吉備高島史蹟考(三)」 『備後史談』 15巻4号 1939 (昭和14年) ・ 4
  - ・兼田高洲 「吉備高島史蹟考(四)」 『備後史談』 15巻4号 1939 (昭和14年) ・ 4
  - ・世良長造 『吉備高島考証』 吉備高島宮址顕彰会(岡山県小田郡神島外村役場内) 1939 (昭和14年) ・ 5
  - ▲濱本鶴賓 「中国鉄山文化と高島宮との関係」 『備後史談』 15巻5号 1939 (昭和14年) ・ 5
  - ▲濱本鶴賓 「中国鉄山文化と高島宮との関係(二)」 『備後史談』 15巻6号 1939 (昭和14年) ・ 6
  - ・「吉備高島聖蹟と上田氏一行の調査」 『備後史談』 15巻6号 1939 (昭和14年) ・ 6
  - ・「神武天皇聖蹟調査委員審査」 『備後史談』 15巻6号 1939 (昭和14年) ・ 6
  - 荒木文部大臣他 聖蹟36か所・一府九県
  - ・兼田高洲 「吉備高島史蹟考(完)」 『備後史談』 15巻7号 1939 (昭和14年) ・ 7
  - ▲濱本鶴賓 『水呑村の上古と聖蹟高島』 聖蹟高島顕彰会(沼隈郡水呑村役場内) 1940 (昭和15年) ・ 2
  - ▲濱本鶴賓 「高島埃宮聖蹟調査一家言(一)」 『備後史談』 16巻2号 1940 (昭和15年) ・ 2
  - ▲濱本鶴賓 「高島埃宮聖蹟調査一家言(二)」 『備後史談』 16巻3号 1940 (昭和15年) ・ 3
  - ▲濱本鶴賓 「高島埃宮聖蹟調査一家言(三)」 『備後史談』 16巻4号 1940 (昭和15年) ・ 4
  - ・「神武天皇高島宮聖蹟決定」 『備後史談』 16巻5号 1940 (昭和15年) ・ 5
  - 所在地 岡山県児島郡甲浦村大字宮の浦字高島
  - ▲濱本鶴賓 「高島埃宮聖蹟調査一家言(四)」 『備後史談』 16巻5号 1940 (昭和15年) ・ 5
  - ▲濱本鶴賓 「聖蹟高島の決定発表に就て」 『備後史談』 16巻6号 1941 (昭和15年) ・ 6
- 以上の様に、明治末年から始まった「吉備高島宮」の比定地に関する論争は、昭和十五年に岡山県児島郡の高島に決定することが文部省から発表され、最終した。これらの論争において、備後説の根拠として挙げられたのが、神辺平野に古代「穴の海」と呼ばれる入海があったという伝説であ

り、その海が畿内、あるいは出雲などとの交通の経路になったという地形的特性を示すことで説明されたことは拙稿で示した。

さて、前掲の通り、その論争は、郷土誌『備後史談』に逐一報告されており、その経緯をたどることができるが、『備後史談』とはどのような雑誌であろうか。『備後史談』創刊号（備後郷土史会、大正十四年一月十五日発行、復刻昭和四十五年一月、芸備郷土史刊行会・中国文化財保存顕彰会）から触れて置く。拙稿では、井伏の兄・文夫が、昭和二年一月に同会の常任理事となっている（『備後史談』第三卷第二号、昭和二年二月）ことは示した。

創刊号掲載の「備後郷土史会彙報」によれば、本会発足の経緯は、次のようである。

大正十二年四月初め 発起人会立ち上げ

石井貞之介（深安郡教育会長）他、備後地域の学校長、義倉財団理事等識者 30名あまり。

同年 七月七日、義倉図書館内で発起人会開催

会長・石井貞之介、副会長、理事を決定、事務局を義倉図書館内に置く。

大正十三年三月十六日 福山城公演内葦陽開館にて創立総会開催、会員二百余名。

同日 評議会開催

これとは別に、大正十三年四月から、「史談会」という研究会、あるいは郷土文化の顕彰会のような会が開かれ、地域の偉人にまつわる集会を不定期に開催している。また、東京では、「在京会員小集会」なる会も開催されており、郷土史に関心を持つ人々がその実績の顕彰に集結したと言つてよい。これらの会の理事に、濱本清一（鶴賓）、福山中学の井伏の恩師・福田祿太郎の名前も見える。大正十四年一月の会では会長に和田英松（文学博士）、その他、副会長、理事、顧問、評議員が役員として掲載されている。顧問の中に、井伏の作品にも名前が登場する五弓安二郎の名前も見える。

備後郷土史会の機関誌『備後史談』の主旨について、「発刊の辞」には、古くは「風土記」、「遙か下つては」近世の「地方誌編纂の事業」の隆盛を例に挙げながら、郷土の文化についての研究の必要性について主張している。その背景となっているのは、明治の「維新の当初」「我が文化思想に激変」が生じて、「旧物の破壊至る所に行われ」たこと、また「文明機関の普及は常に破壊的行為を取り」、「古き歴史の葬り去らるゝこと数知らず」、貴重な自然も資料も「廃亡滅裂に帰せんとするは事実なり」として、文明の進展に伴う文化遺産の消滅に警告を発する内容となっている。

前述の通り、会の立ち上げに関する最初の集会は、大正十二年四月であることを思えば、大正中期以降の第一次世界大戦の戦需景気とそれに伴う科学技術の進展、資本主義経済の本格化、都会文化の隆盛などの社会的な「激変」が背景にあるのはいうまでもなからう。その中で、「備後郷土史会」は、「国史の教育、国民精神の陶冶を主眼として」発足し、郷土の廃れ行く旧跡、事績を研究することによって、「璞玉為めに光輝を放つ」ものにしていく、としている。そして、会が直接の先達としたのは、江戸後期に藩命によって『福山志料』を編纂し、地域の教育・振興に業績を残し



た菅茶山であった。会では、その表現として、雑誌の題字を会員所蔵の菅茶山「遺墨」から取った旨、創刊号「編輯余録」に記している。また、その見開きには、廉塾における第三回史談会参加者の集合写真が掲載されている。

これらの活動の背後にあるのは、郷土の文化の消滅に対する危機感である。その共感のもとに、有志が集まって声をあげたのであり、その活動の実務的な役割を担ったのが「義倉財団」であったということである。

さて、井伏鱒二の兄・文夫は、加茂町栗根の自宅を発行所とする雑誌『郷土』を発行しており、小学校の教員の傍ら、地域への啓蒙活動を行っていた。この雑誌の編集には、井伏も協力していたという。当該雑誌の「巻頭言」「編輯後記」が『井伏鱒二全集 別巻一』（注3）所収の「井伏文夫遺文」に掲載されている。その巻頭言は、前掲の『備後史談』の「発刊の辞」と主旨に共通のところがあある。「現代社会が一般に外形的文化を求めめる傾向」にあるとし、「西洋直訳的都会文明」に「一種の誘惑を感じる」「質朴な農村青年」に対して、また「現代を独自の文化なき農村社会のために」「わが郷土文化の開拓を怠るわれらは深安新青年のちからによつて成さるゝ新深安創造の首途を記念すべく『郷土』の発刊をなしたのである」と宣言している。全集の解説によれば、雑誌『郷土』の創刊は大正十二年一月で、終刊は昭和二年五月である。文夫は、前述の通り、昭和二年に後郷土史会の常任理事に就任しているが、それは『郷土』終刊が契機と推測される。このように、井伏の周囲には、郷土の文化に対する熱い思いが沸々と沸き起こっていたことを指摘することができる。

ちなみに、そういった動きは、全国的にあつたと想像されるが、その一端に、深安郡出身の漢学者・小野桜山（一八五二〜一九三七）が収集した一万冊に及ぶ「耶馬溪文庫」がある。筆者らは、二〇二二年十二月二十二日に、福山大学ブランディング事業・プロジェクト課題研究「福山義倉」の文化的ネットワークとその継承―菅茶山・井伏鱒二を軸に」（三菱財団人文科学研究助成に採択、二〇二三年一月〜二〇二四年十二月）の調査で、その実態を調査した（注4）。これは、明治二十年ごろ、三十五歳の桜山が、明治になって読まれなくなり、捨てられるべき書物を、一千余人の人々に寄贈を依頼して集めたというもので、その主旨から、当初「反古文庫」とされていた（「反古」は、ゴミくずのこと）のであるが、その主旨は『備後史談』発刊の意図とも重なるものである。小野桜山は興譲館とも深い関係があり、備後郷土史会のメンバーとは、おそらく漢学文化圏のネットワークにつながるものである。ちなみに、桜山は大正十五年には、朝鮮半島から中国にわたり、漢文学発祥の地を訪ねて、文人に逢い、書籍を多く持ち帰ったという。（注5）

これらの事例からは、大正末期の地方における郷土の文化への再評価の動きを知ることができる。井伏の「在所もの」の淵源を、ここにも見ることが出来る。それは、宮沢賢治の『注文の多い料理店』の広告文にも見ることが出来る共通の動きと言える。

このような郷土の文化的状況を背景に、井伏は『備後史談』から郷土についての情報を得て、作品に活かしていたと思われる。本稿においては、前述の郷土に関する随筆「郷里風土記」と、「穴の海」に関連する随筆的作品「架空動物譜」と、「備後史談」における情報との関連性を指摘し、昭和十年代の井伏の作品との関係について考察する。

## 2. 「郷里風土記」における「古墳」と『備後史談』における「古墳」についての情報

『備後史談』には、古墳を始めとする埋蔵文化財発掘の情報が随時掲載されている。その中で最も大きな紙面を使って報告されているのは、昭和三年七月十七日に行われた、早稲田大学の西村真次博士の発掘調査である。これは、『備後史談 第四卷第八号』（昭和三年八月十五日発行）で、「西村博士史蹟踏査記念号」という特集号となっている。そして、その記事は、濱本鶴賓の「穴の海」への関心に貫かれている。巻頭は、濱本清一著「蘆品深安沼隈三郡に於る西村博士の史蹟踏査」と題する記事で、発掘状況を「穴の海」との関連で紹介しているが、それに続いて、鶴賓外史（濱本の号）著「穴の海に絡まる伝説 人魚と中條鰯、河童と茂兵衛、片山病と漆船」と続くのである。

実は、鶴賓外史（濱本の号）著「穴の海に絡まる伝説」は、井伏の随筆「架空動物譜」（『文芸春秋』第十一年第七号（七月号）、昭和八年七月一日発行）という空想上の水生動物について述べた文章に引用されているのだが、これまでその所在を発見できていなかった資料なのである。これは、前掲の拙稿にも所在不明としていた。その資料が、古墳調査の記事を探した際に同時に見つかったことは、興味深い。つまり、濱本清一（鶴賓）の関心が、備後の起源としての「穴の海」という地形的特徴にあり、それが備後の政治的、文化的な事象との関連で理解されていることを物語っているからである。濱本にとって、備後の世界観は、まさに「穴の海」を中心としてあると言える。

これからすると、井伏の「郷里風土記」の郷土の説明は、まさに、この濱本の文章をなぞっていると行って間違いない。濱本清一著「蘆品深安沼隈三郡に於る西村博士の史蹟踏査」の冒頭は、次のようである。

吉備の穴ノ海沿岸一帯の丘陵平野は、鴻荒の太古に於て、人類生活上の要素を具備し、遠き我等の祖先や尚遡つて原住民の棲息繁栄したところ、有史以前から今日まで、幾多奇しき神秘を裏んで居る。史蹟のやゝ明なるものは建速素戔嗚尊の龍舟を舩して南海にい出まし、疫隅、神日本磐余彦天皇の東征策源地たりし高島、出雲と大和との交路の衝に立つた品治を始め、大吉備津彦の巡撫と父孝霊天皇の御足跡を繹めべく、日本武尊の穴ノ海の悪神を討伐し給へる、神功皇后の海神に奉賛し給へる、仁徳天皇の山方に行幸し給へるなど、夫れから夫れと、尊き史蹟は連珠の如く点在して居る。

このように、記紀神話の事績を列挙して、「吉備の穴ノ海沿岸一帯」の歴史的意義を強調しているところは、井伏の文章にそのまま受け継がれている。

この発掘調査は、七月十三日から二十二日にわたって行われたようである。その調査の始まりは、府中の粟生村の「南宮神社」「孝霊天皇陵伝説地」に近い向山の古墳の調査で、「前方後円式横穴石室」、および「遺物」の内容について述べ、「此辺一帯の古墳群や遺物から推すと、大和朝廷建設以前から原日本人の栄えた土地らしく、三方山を繞らし一方河海（穴ノ海）に臨み、古代人の栖息地として理想的である」と「鑑定」し、「二〇〇〇年以前」から「一五〇〇年以前」のこの地域の豊かな生活を想像している。

これに続いて十五日は、「国分寺国司遺蹟」の調査で、「栗栖の寺屋敷と称する、国分寺址伝説地」を調査、「深安郡御領の国分寺」との「比較研究」がなされることとなった。その後「国府村字府川」で「国司庁の在ったといはるゝ二宮神社付近の地形」を調査、「粟生村字用土」では「吉備神社旧鎮座地」、孝霊天皇にまつわる伝説地、御門神社と「古身体」を調査している。この地について、濱本は、この地が「京都と太宰府を結ぶ

山陽大路の通ったところ」で、「政治の中枢地」であったとその意義を解説している。

十六日は資料整理、十七日は「御野の国分寺及湯田道上」の調査で、「深安郡御野村大字御領」に向かい、御野村村長から地域に伝わる資料を踏まえての説明を受けた後、国分寺の礎石を探索したとある。発掘した埋蔵文化のうち、特に石器について「原住人種若しくは原日本人の使用した石鍬石斧砥石類が数多く此の地から出て居る」として、「往古の穴ノ海沿岸で、備後文化の萌したところを知るに足る材料」と重ねて述べている。これらの発掘調査の記録として「東京理科大学人類学教室の調査」の成果を紹介し、従来の石器発見地として春日村浦上、大津野村大門、引野村、湯田村、御野村、中條村、道上村亀山（沼隈郡を除く）を挙げています。

その後湯田村本湯野の上持の古墳址、小山池畔の丸山を踏査、丸山は「三段式前方後円の大古墳」だという伝承があるところで、その他、博士が湯田村の茶白山、道上の亀山なども、「何れも調査をすれば大古墳であらう」と述べたと述べている。その後、亀山の岡山神社付近の発掘調査、そこで石器の破片、および弥生式土器の破片を発見、「古くより原日本人の棲息した土地であることを博士は声明された」とある。

二十二日は、「高須柳津両村の貝塚」の調査で、昨年発掘の「沼隈郡高須村字太田の貝塚」、山本新氏「新発見の貝塚」を「同郡柳津村字王子」で調査、それぞれ、石鍬と弥生式土器の破片、「アイヌ式土器の破片と歯のついた獣骨」を採取したとある。

この調査には、備後郷土史会会員のほか、村長、新聞記者などが同行し、歓迎会には村会議員、村吏員、小学校教員等が参加したとある。雑誌には、山陽新報、中国新聞、中国民報、大阪毎日、大阪朝日各紙の報道記事の掲載が続いており、この調査の反響の大きさが想像される。

なお、西村博士の調査は、昭和四年七月にも行われており、『備後史談』第五卷第九号にその報告がある。

### 3、「架空動物譜」における「鶴賓外史の「穴の海に絡まる伝説」の引用について

前述のように、雑誌『備後史談』第四卷第八号の巻頭に、西村博士の古墳調査の記事があり、それに続いて鶴賓外史（濱本鶴賓の別号）著「穴の海に絡まる伝説―人魚と中條鰯、河童と茂兵衛、片山病と漆船」が掲載されている。

これについては、前述したように、井伏の随筆「架空動物譜」（昭和八年）に次のように登場している。（注6）

その旅行（引用者注―系崎への旅行）の帰りみち、私は理由なく大津駅で下車した。そして駅前の旅館で鶴賓外史の「穴の海に絡まる伝説」を読み、偶然にも琵琶湖畔に人魚塚のあることを知った。けれど私はその所在がわからなかつたので、また私たちに無用な人魚塚など、どうしてこんなに自分は見たがつてゐたのであらうと反省して、見に行くのは止にした。鶴賓外史の文章で判断すると、人魚塚といふものは相当地に芸術的にできあがつてゐるものと思はれる。

「架空動物譜」は、空想上の水生動物―人魚、河童、龍―について、世界各地の同様の「架空動物」と比較しながら、その神秘について述べたもので、最終的には東洋の龍のイメージの生命力について賞賛して終わっている、というものである。そこには、濱本の「穴の海世界観」が影を落とされている。

鶴賓外史の「穴の海に絡まる伝説」は、海水浴場で泳ぐ「人魚の群を見た」という幻想（と思われる）から、少年時代に読んだ「八犬伝」の挿絵

に「眉目麗はしい人魚の口絵を見たこと」を思い出し、次のように始まっている。

——世に若しこんな女人が居たならばと、不思議に聯想を喚び起す。西国巡礼の札所近江の観音寺が、美しい人魚の哀願によつて聖徳太子の建立された大伽藍なることなど想ひ浮べ、琵琶湖畔の人魚塚を偲び、果ては穴の海の人魚伝説まで床しくなつた。

このような人魚にまつわる「聯想」から「穴の海に絡まる伝説」へと筆を向けていく。「絡まる」とは「関連する」というほどの意味であろうが、中條、片山という、現在では、海から遠い備後福山の内陸部に伝わる海に関連する不思議な伝説を紹介し、その根源に「穴の海」沿岸に暮らす人々の心情をうかびあがらせている。

その第一話は「中條鰯」の話である。それは、江戸後期の地誌「西備名区」に「袖中秘記」から引用したとして語られているもので、「元龜天正の頃」中條（深安郡）にいた修験者が、全国行脚の折り信州に立ち寄つた際、昔人魚を食べて「数百歳」の長寿を保っているという老婆に逢い、中條は今も漁業で栄えているかと聞かれて驚くという話である。濱本の文章に引用されている老婆の言葉は次のようである。

中條は海に臨める海人の里にて、南に八ひろ、千田の網代、中島、五箇手島、鮒附の漁場あり、鵜飼ひ網引は其の北に連り、西は中津海の瀬戸にありて大海に通じ、鰯は殊に多きものを。

こういった類話は全国にあると、濱本は述べている。そこには、「穴の海心性」とでもいふべき、「海に絡まる」心情があり、その地域の生活感情として長く定着していることを知ることができる。これについて、濱本は次のように述べている。

半鹹半淡の穴の海と、半人半魚の人魚とは伝説として至極ふさはしいものである。琵琶湖や出雲の中ノ海や宍道湖に人魚伝説が多いやうに、穴の海に此伝説の一つ二つあるのは当然であらう。

第二に河童の話はさんで、最後は「片山病と漆山」に関する伝承、「漆船転覆伝説」を紹介している。「片山病」は、現在では「日本住血吸虫」が原因であることがわかっているが、古くはその原因について、この地を通行する船が大風で転覆し、積み荷の漆が海中に飛散し、また海底に沈んだからだとする伝説があつた。濱本は、「福山志料」にもそれについての言及があることを示し、沼隈郡山手村の医藤井好直のものとする文章を引用している。

西備神辺駅の南の田の中に小山一あり碇山片山といふ片山一に漆山といふ、相伝ふ往古商船あり漆を載せ来り碇泊す、大風船を覆し因て名附づくと、昔時此を過ぐる者皆感染すといふ。

この寄生虫は、片山貝（別名ミヤイリガイ）という巻貝を中間宿主として経皮感染することが知られている。

このように、福山市内陸部に伝わる海にまつわる不思議な伝説は、古代の「穴の海」の証拠として濱本の内面に深く根付いていると言える。

#### 4, 『備後史談』における「穴の海」世界観と井伏鱒二の初期作品における河海のモチーフ

——西村博士古墳調査特集号における濱本鶴賓の記事を見る——

以上のように、『備後史談』第四卷第八号における濱本鶴賓の二編の文章は、一貫して「穴の海」という古代の地形的特徴から発する備後の世界観を描き出している。古墳調査は、古代の生活を物的証拠から実証することであり、「穴の海に絡まる伝説」についての言及は、人々の心に伝わる心的証拠から「穴の海」の実在を証明することであった。

この二つの観点は、古代史の研究方法として取られる客観的な方法であることを強調しておきたい。郷土史を語る際、心的証拠である神話や伝説など伝承文化については空想上の話しとして軽視する傾向が一般にはあるからである。郷土史研究の大家・村上正名氏（広島大学教育学部福山教場教授）は、その著書『瀬戸のあけぼの』（注7）において、古代史研究の方法について、神話を含めて広く語り継がれてきた風俗習慣から古代社会の様子を知る方法と、当時の遺蹟遺物に歴史を物語らせる考古学的な研究の二つがあることを示し、それぞれで業績を残している。特に後者については、村上正名編『備後の伝説』第1集〜第3集（注8）があり、濱本が紹介している伝説を同様に掲載している。

濱本が語る「穴の海」に関する地域史の著作には、古代からの備後の歴史に根差した「内なる故郷」に遡及するエネルギーが感じられる。そのエネルギーは、井伏の心をも動かしたと考えられ、井伏は、そこから郷里の先達の文章に影響を受けながら、自分の作品世界の構築に向かったのではないかと推察される。初期の作品、「山椒魚」（昭和四年五月『文芸都市』第二巻第五号、注9）を始めとして、「架空動物譜」（昭和八年七月発行『文芸春秋』第十一巻七号、注10）、「さざなみ軍記」（昭和五年三月『文学』第六号）昭和十三年四月『文学界』第五巻第四号まで断続的に発表、昭和十三年四月河出書房から『さざなみ軍記』として刊行、注11）、「ジョン万次郎漂流記」（昭和十二年十一月、記録文学叢書八、河出書房、注12）と、海に係る作品が、昭和十年前後に発表されている。これらは、『備後史談』で、濱本鶴賓がしきりに「穴の海」についての文章を発表していたところであり、その始まりには、早稲田大学の西村教授の古墳調査があったのである。それは、兄の文夫が雑誌『郷土』を終刊させた後で、『備後史談』の常任理事になった直後のことであった。

井伏鱒二の「在所もの」の起源に、「穴の海」伝承があったと言っても良いのではなからうか。そして、井伏の作品の背景を探る中で、「穴の海世界観」が現代における地域誌にそのまま受け継がれていることを知ったのである（注13）。それは、下記のような資料に繰り返し語られている。

『福山市土地改良区中津原工区史』中津原工区編集委員会編、発行責任者、戸田勇、一九九五年

『備後福山 みゆき町の昔ばなし（二）——水とのたたかい』御幸町郷土史研究会編、二〇〇二年

『わが郷土備後 下加茂史談』下加茂郷土誌編纂委員会編、下加茂町内会連合会発行、二〇〇七年

このことは、井伏の郷土観が、深く地域の郷土観に根差すものであると同時に、現代にも共有されていることを示すものである。

井伏鱒二文学の独自性「在所もの」の調査は緒についた所である。その後にそれがどう展開していくことになるのかは、今後の課題とする。

注1 秋枝美保『宮沢賢治 北方への志向』（朝文社、一九九六年九月）

注2 『井伏鱒二全集 第七巻』（筑摩書房、一九九七年一月）所収。

注3 『井伏鱒二全集 別巻一』（筑摩書房、一九九九年九月）所収。

- 注 4 研究代表者・青木美保、共同研究者は、清水洋子（福山大学准教授）、柳川真由美（福山大学准教授）、前田貞昭（兵庫教育大学名誉教授）、竹村信治（広島大学名誉教授）、市瀬信子（福山平成大学教授）。本調査は、前田・青木が行った。
- 注 5 荒木見悟「耶馬溪文庫とその周辺」〔耶馬溪文庫目録〕 大分県中津市HPによる）
- 注 6 『井伏鱒二全集 第四卷』（筑摩書房、一九九六年十二月）
- 注 7 村上正名『瀬戸のあけぼの』（広島大学教育学部福山教場郷土史研究部、一九四九年）
- 注 8 村上正名編『備後の伝説』第1集〜第3集（広島大学教育学部附属福山中学校郷土研究部編、一九五六年）
- 注 9 「山椒魚」（『井伏鱒二全集 第一巻』、筑摩書房、一九九六年十一月）所収。
- 注 10 「架空動物譜」（『井伏鱒二全集 第四巻』、筑摩書房、一九九六年十二月）所収。
- 注 11 「ジョン万次郎漂流記」（『井伏鱒二全集 第六巻』、筑摩書房、一九九七年六月）所収。
- 注 12 「さざなみ軍記」（『井伏鱒二全集 第二巻』、筑摩書房、一九九七年二月）所収。
- 注 13 筆者は、二〇二二年五月二十八日に開催された「福山城400年博・Fukuyama Castle Expo 2022 羽賀自治会 歴史講演会第1回 穴の海、穴戸って何？―井伏鱒二とめぐる瀬戸内―」という講演に際して、その内容を調査する過程で、福山市内の各地域で編纂された地誌を閲覧したが、どの資料も必ずその歴史の起源に「穴の海」のことを語っており、地域に伝わるその地図を掲載しているのを知った。そして、羽賀地区では、豪雨災害で流された沈下橋の再建に向けて、地域における芦田川との取り組みの歴史を学び、その川への思いを新たに継承する活動を始めたとのことで、そこに現代に継承される地域の風土への思いを実感することができた。

The Addendum about the Paper “The Viewpoints about Hometown  
by Masuji Ibuse and Kenji Miyazawa”

—About the Relationship between the Works by Masuji Ibuse and the Information  
about “Ana no Umi” in Bingo and Ancient Tombs Excavated that They were Reported  
in the Local Magazines in the 1930s —

[Masuji Ibuse, local history magazines, excavation of ancient history]

**Miho AOKI/AKIEDA**

The previous paper said that the viewpoints about hometown by Masuji Ibuse and Kenji Miyazawa are rooted in the life of local ancients, and there the two authors had “inner hometown” that compensate for free spirits. This paper said that Ibuse’s works are influenced by information about ancient history reported in local magazines. In fact, comparing his works with the information in the local magazines, this paper will reveal the uniqueness of his works.

### 執筆者紹介（目次掲載順）

丸山友美	人間文化学部
白尾綾音	福山大学大学院人間科学研究科
平伸二	人間文化学部
大杉朱美	〃
皿谷陽子	人間環境大学心理学部
青木（秋枝）美保	人間文化学部
日下部典子	〃

### 紀要編集委員会

村上亮	人間文化学部
中野美奈	〃
渡辺浩司	〃

福山大学人間文化学部紀要第23巻  
令和5年3月1日発行

発行所 福山大学人間文化学部  
福山市学園町1番地三蔵  
〒729-0292 電話 084-936-2111（代）  
発行人 福山大学人間文化学部長  
日下部 典子